

軍治備周集二

上備

ヤ 5

487

2

国文学研究資料館

侍用集卷第二目錄

備勝負卷上

一

大将心持之事

二

人殺續之事 付リ兵粮續事

三

軍勢よくめもの事

四

軍士粮とがびへき事

五

玉糸箭弦おれよ可後事

六

陣押し事

七

著陣心得事

工力

八

鷹馬田之事 付能大吏事

九

田舎の居人可成る事

十

小屋のりつ付 備之圖事

十一

大將備事

十二

旗伝事

十三

弓矢砲倫事

十四

軍勢入給心事

十五

追討心得事

十六

くらり事

十七

物見便番事

十八

山を隔る戦事

十九

川を隔たる軍事

二十

平地の戦事

二十一

城を攻め別事

二十二

籠城事

二十三

大勢を討心得事

二十四

小勢を討心得事

二十五

たよりあり戦事

二十六

船軍事

二十七

大將の船事

二六

軍船作振く

二五

船初く事

二四

いりちとおろしんぬく

二三

山と越羽く

二二

可不審事

二一

くらくくさ敵く

二〇

鎮分近國の一揆く

侍用集卷第二

備勝負卷上

第一大将心持之度

一國二郡の大將其國の人其作法と以自の境と思ふに

先國の人上下もあつて一藝一物をやらうもの儀ハ

おのの概さうとちひてお小心を付給へ一經ハさうもの

面白おぼれ度の上なる者といふ細くも取立

又多駄草ふ付ても大将の度とまげうらの若者親を

あやせし侍より作と切るもおと作町人家と賣て大

と買ふか或ハ主君の由氣ふ入んとおかひ又君の親ハ何

度もふさ度と諸人心持るものなれはそこのおんを



中意として。お徳を忘るゝものなり。ゆゑに武道と心
 掛百姓として。耕作を怠といふ。町人ハ高貴と欲い守
 と。そん中意と云へられ。兵大將一人の心よ。以て諸人の志
 う。なるものなり。第一近習が候より。士民ふつ
 ぬ。まぐに。心付らる。吾等と知れ。或は町と通
 給。別ハ人の家。君を。場。ま。に。心。付。て。も。他。法。の。く。ハ
 雨の。か。ら。ふ。心。を。付。給。へ。し。又。将。場。奮。發。の。ふ。出。る。
 て。田。畠。ふ。を。付。給。へ。し。何。れ。も。道。を。終。る。海
 人。と。し。ら。し。志。給。或。又。画。画。し。て。貪。と。是。と。憐。憐。ふ
 ち。て。富。を。成。と。是。と。欲。を。給。ふ。弟。ふ。も。吟。味。を
 家。及。小。國。富。を。し。て。人。の。い。づ。終。る。下。想。あ。人。を

ありけるは要也又もち大將の下に。要者あることず
 べ。他人とてんをわけて。或ハ愚なりとハ賢ふお誂。倭成をば
 事なり人ふ交て諸を所諸役と請作付。愚も智も
 付。倭なりともあきなりともふ隠けて心と付たけりとも。そ
 家柄とのけり。もちるに志とびひ。ゆりせしあるより
 もち老ありく味すべ。又諸人ゆりの教と今ハなげ
 うち目にし。著るるハ。必乃不定なりと。思ひへ。又
 罪人多く。ちう道のたど。くねとたのめへ。大將そ
 じうさる。則。人のとさうとす。下とふむるもぞ。又ふ
 死といふものも。極ふ死罪流罪のものまれなり。又城
 下の人。他國へ行る場あること。高人不来則。亦倭

終るすも人し時を後をされば何時も出さるべきこと
 たりし常小誓古といふ故小俄の時著る乃水池を小
 も首尾よきもの也或は徳藏人のいふごとくゆふ念を念
 候ともゆふをそれらまて六たきう心をつくりみぐく
 ことありよりのあり併結とゆ流し道具とゆふに
 されどもそも好悪出来て出来て思ふ思ふ思ふ
 ありせられども心付ともくは後をされざるみたとり
 一方候るゆ序

第二人教積之度とく付け去積之度とく

一人はたゞ前まえにも書うくともそをた後うしろをつとむるといふ意
とすべし。然しかるを思おもひをきり味あじするを大將たいしょうと云いふへ

軍法より先役人と定むるを要とするなり

二百騎の大將の積ちの次第を商

一七人 武者奉行 一七人 軍者

一十五人 引換炮銃 一七人 旗奉行

一四人 赤行勢 一七人 物見

一三人 右筆 一七人 旗手

一七人 太鼓 一七人 鐘

一七人 貝 一七人 旌旗

一七人 煙奉行 一七人 醫師内
二人本道
二人金瘡

一七人 大工

右合五十九人

一三人 馬強 一三人 旗指

一七人 引 一七人 後炮

一七人 竊盜者 一七人 歩行者

一五人 出玉内
二人兼用者
二人金瘡 一七人 料理

一三十人 出玉内 一七人 小者

一七人 人足 一七人 内港お湯の湯

一七人 船泊 一七人 矢細工

一七人 弓細工 一七人 弦指

右千八十六人

一七人 騎る役者外 一十五人 児小性騎る

右九十五人

一騎一人付供士人内一人甲指三人歩行者二人残約一人
を履れ三人ふれ二人小者二人人足

右知行五百石、積いお道具自給ふすべし

一騎合百半に騎い家来二子百五十六人

惣合人数三子三百九十六人

石一日之飯米二十七石二斗七升、但人付り粟八合

一馬十五疋、一密中、家馬百半八疋、内足八、残者

右馬数百七十三疋

右大足一日五石を引九升、但一疋二付三升宛

一内小荷駄五拾疋、一密中の小荷駄三百六十疋

右足百疋、いふ、引、換炮の内、あ人出とへ

右大足一日八石、但一疋付二升

右馬付四百人、是、右人数、外

い飯米三石貳斗、但一人付、粟八合宛

物人数合三千七百九十六人

い飯米一日三十三石三斗七升

惣人数、百七十三疋

い大足一日拾三石一斗九升

一換炮、五二千、銀目六貫目、一同、粟四貫五百目

右三女玉のつり、業ハ二女つ、の、何れ一人あ、拾、

但業ハ、つり、の、多、す、へ、一、右小荷、の、所、り、也、石火

矢大荷、の、あ、と、へ、一

矢縄二百筋 一人二筋マ

一弓強二百筋すけ 右同

一矢千_ヤ 一付十_{ハツ}筋_{スジ}

六二目の所なり。大將^{たいしょう}よりのおそびなり。を路^{おえ}を所^ゆ又^{また}働^{はたら}
 むるに時を。増^まふらむ。多少^{たう}も時^{とき}より。は増^まふらむ。い
 のま^もん^んより。を。但^た姨^い炮^{ほう}弓^{きう}老^{らう}子^しカ^かレ^れ約^{やく}等^{とう}ふ。大將^{たいしょう}より。増^まふ
 可^か

第三軍勢志々々の事

一食ハ朝夕ともよ。子食一。ろが徳の長道を處て著陣する。道半。そて一度。是と中食と云。又著陣一里。そて一度。是と云。そめと云へ。敵迎へよりてそそめを處る。又あまひを處ぶ。そす。是ハ人数の決。通をやめ。先。そ働する。たあ也。又あまひ敵。そ。食。そ。

あもふくなり。あハ敵より出たり。町ハあふ相遠の儀に
 惣ハ敵より六里やと云そ。距離ちくハ一屯陣とてうり
 と小座と有り。篝とたせ。楮笈とせしめ。着陳の目毛道
 と行へるす。は時大將所重よへらとあるも。道具すく
 うり。と小座とあり。あつひぬ並み。おそきとらま
 し。さきたりなり。

第四 軍士糧を行むる方

一矢^{いっしや}ほめ^{ほめ}も^もう^うく^く。勸^{かん}も^もい^いま^まぐ^ぐま^まぐ^ぐさ^さり^りす^す。去^き糧^{りやう}を^をみ^みて^て
 里^{さと}ふ^ふ食^しす^する^るる^るあ^ある^る。陣^{じん}ふ^ふも^もい^い心^{しん}得^{とく}を^を城^{じやう}ふ^ふも^も
 何^{なん}時^{とき}ふ^ふも^もい^い心^{しん}得^{とく}を^を城^{じやう}ふ^ふも^も同^{どう}あ^ある^る。

どもむろろのさう。さう他表裏のあは入地。印ぐ
 けつれらるるより。又さうのハ決炮とあふす人。
 或ハ百張あふ。決炮と三百人。やゝとて。決炮ハ城を
 ふうらけらるる。敵を打ちし。又さうの合戦
 により。火矢大筒ハ城を。やゝとて。さうの
 けり。或ハさうの事。敵とさき。又退に。に。別
 ち。敵の。さう。さうの。又小者人。是。お。す。さう。さう
 あり。さう。さう。多。さう。さう。無。と。さう。

第九 苗を居人可。さう。さう。

一。何。の。人。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。さう。

一。我。と。さう。さう。時。地。さう。さう。さう。さう。さう。さう。

第十 小。さう。の。さう。備。の。さう。

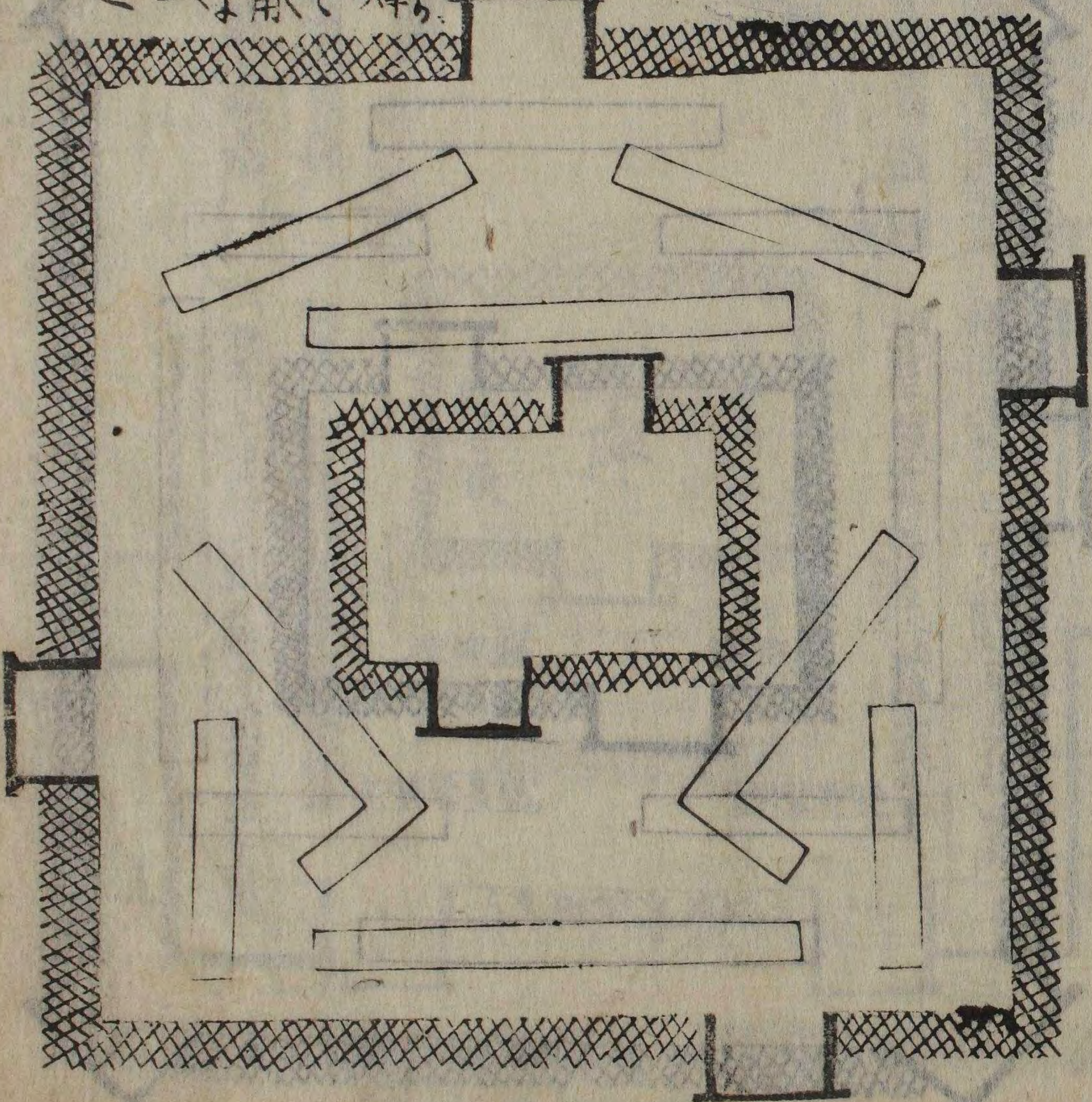
一陣取小をり心算水可至所。登山陰々と崩る。谷に木森
林す。のちうゝ地と空へにうゝ木用珍まへ。大將は候
中よりて。先手後進役とよ。既。石を將に陣川上よ
取合。家々へ。魚鱗然へ。必方角す。惣方とぞ
心算まへ。大將一人の味より。信あり。地務の
吉事とちなり。
一乃ほり。乃。騎る一人よ。二乃むり。軍方。經家へ
下。いづも。あよりて。別をへ。
一もり。竹。付。武子。二百。位。ち。竹。た。
一備。厚。則。二乃。軍。方。騎。る。二。人。一乃。軍。方。歩。立。十二
人。あり。あ。く。は。う。く。い。

鶴翼之小屋

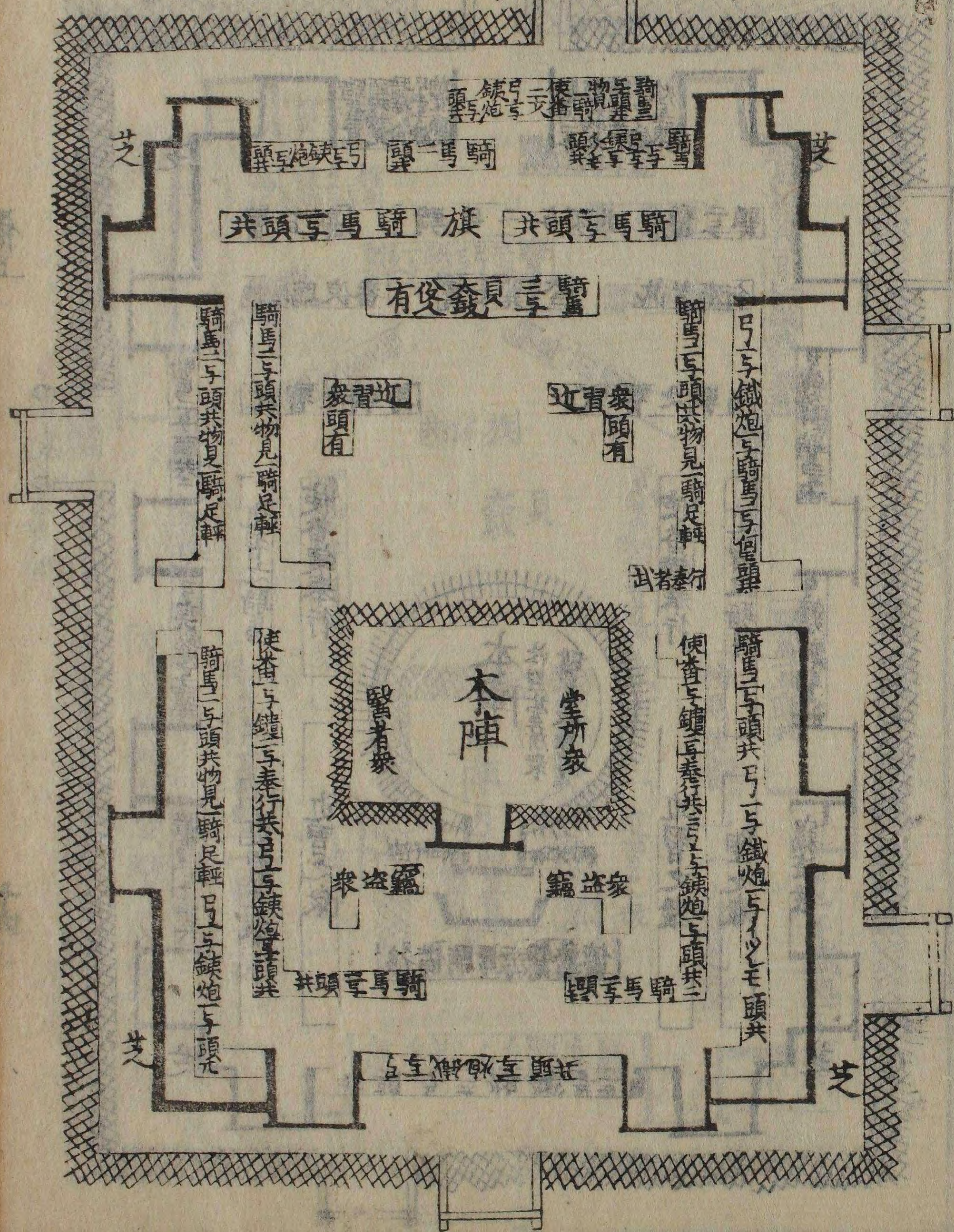


○焼たき
かりもの
二十ふり
大も也
びうす
ともの
置へ
形に
たき

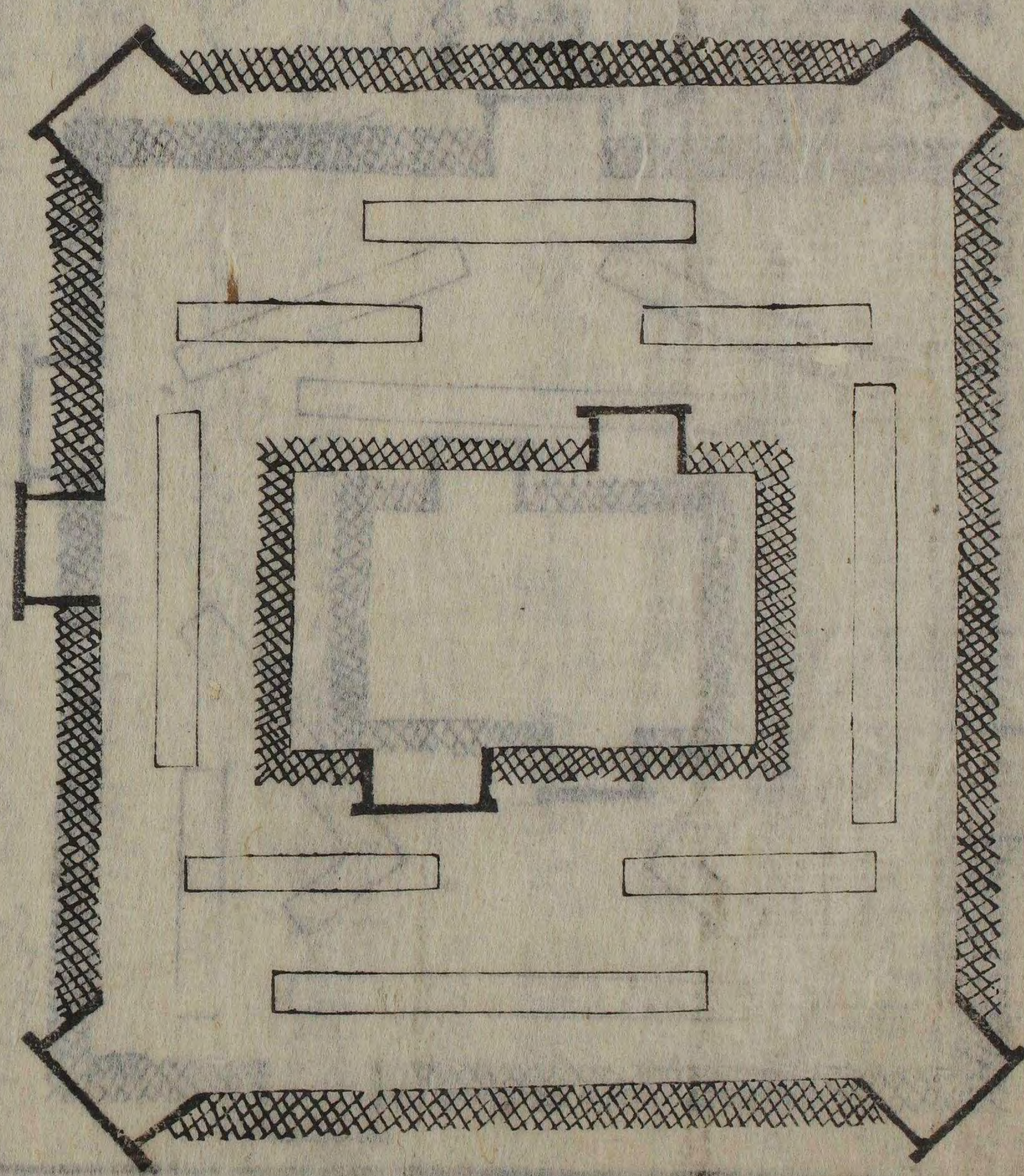
○焼たき
かりもの
二十ふり
大も也
びうす
ともの
置へ
形に
たき



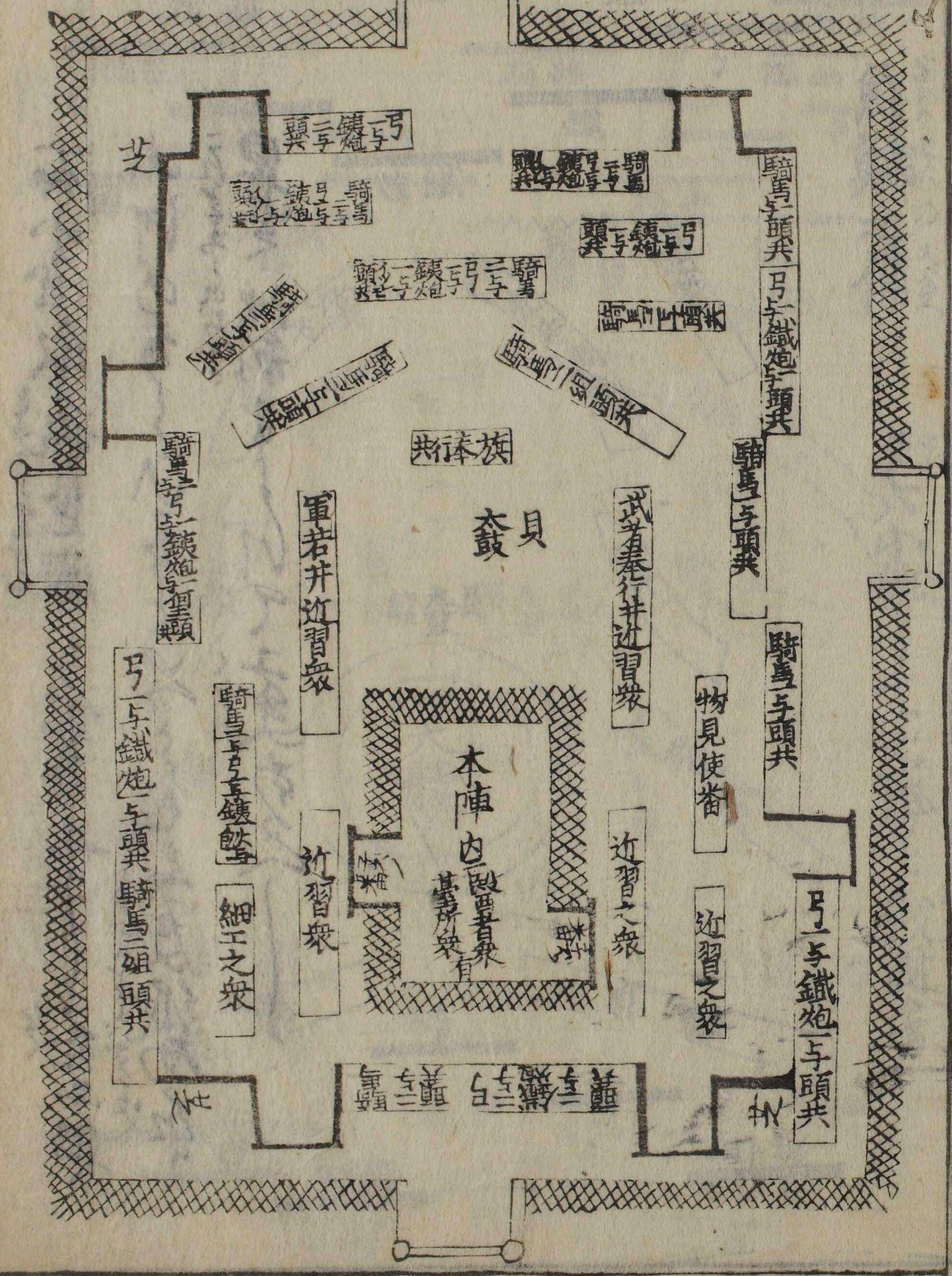
瓶口之小屋



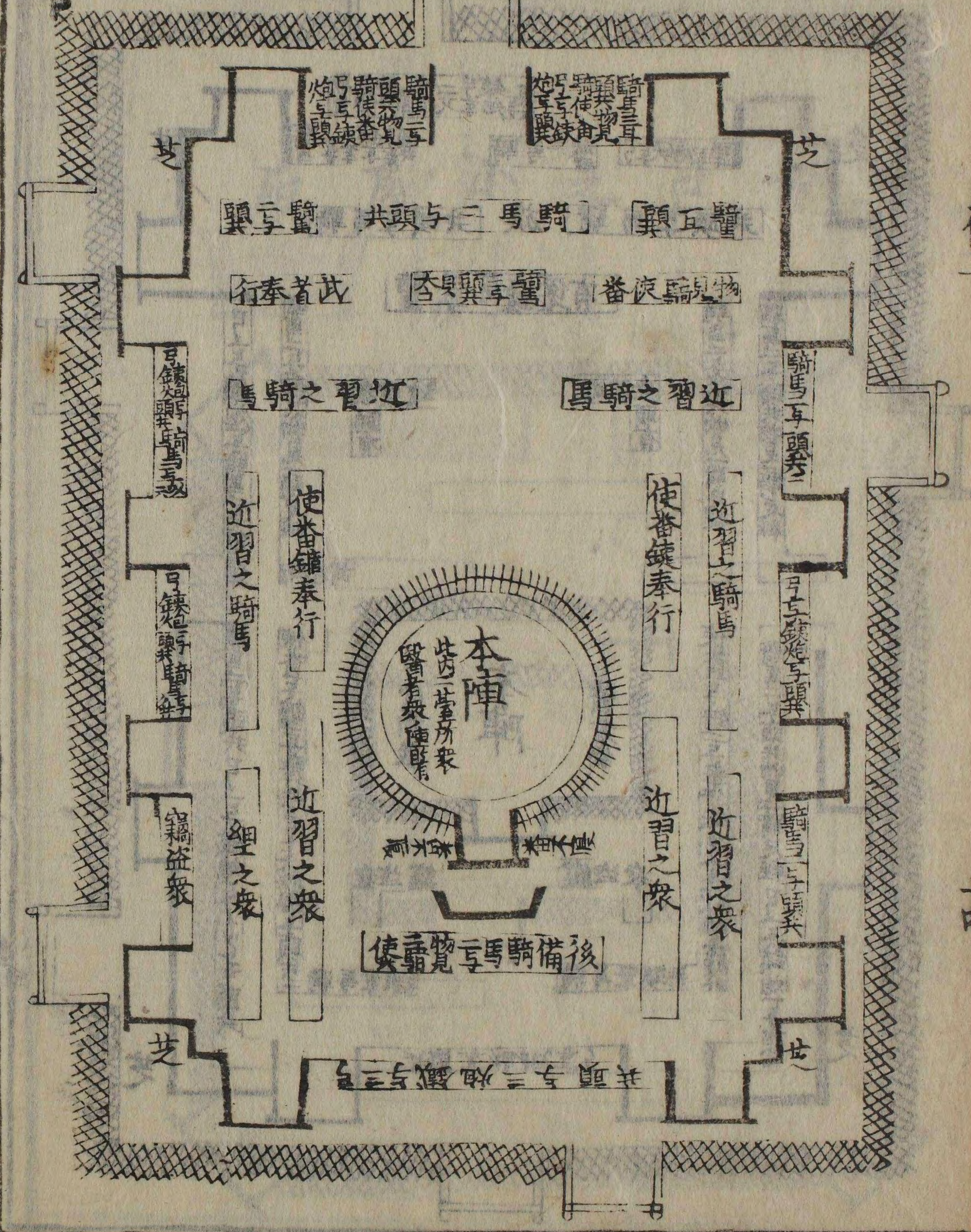
五方之小屋



鋒矢之小屋

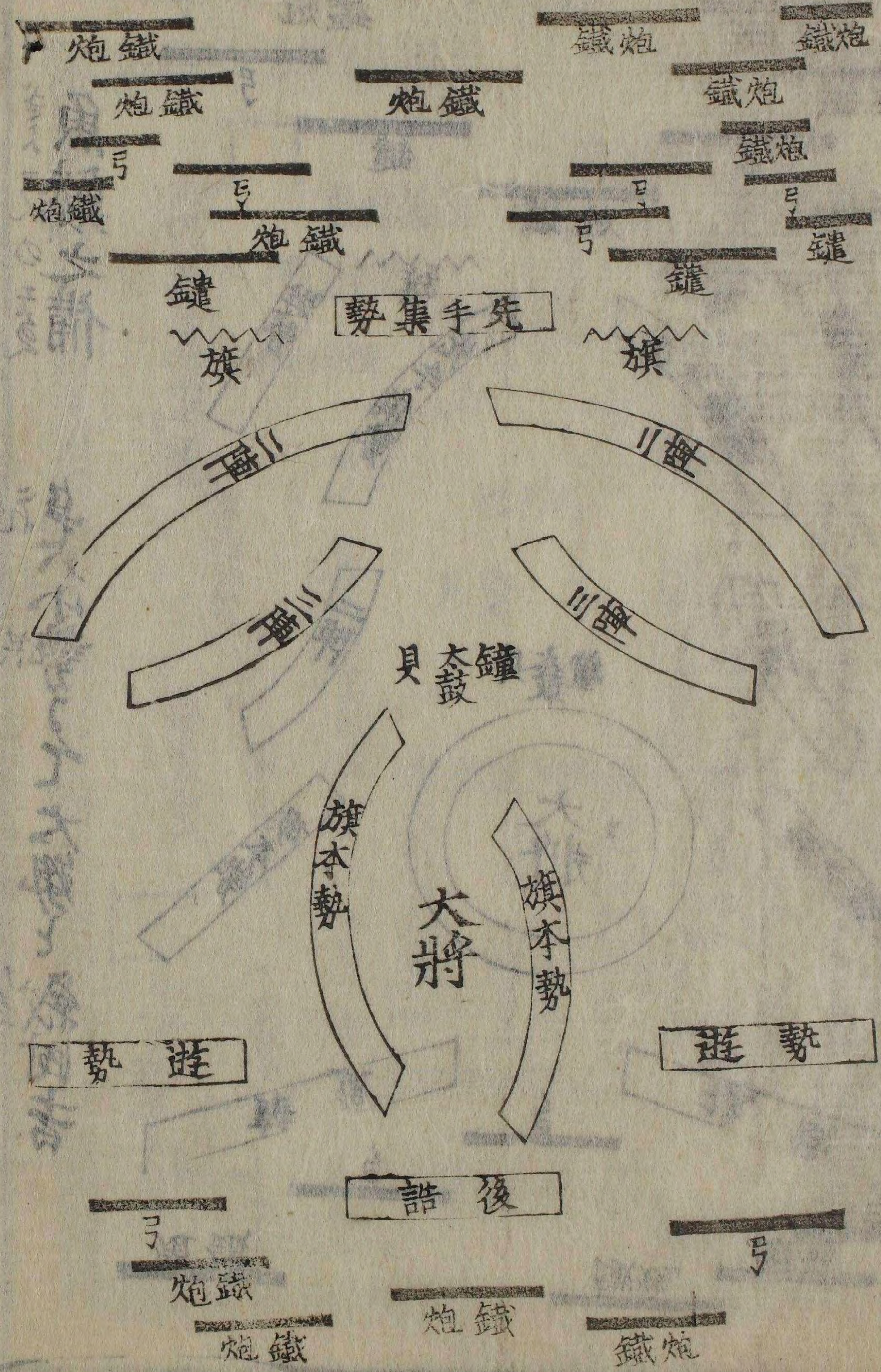


八面之小屋



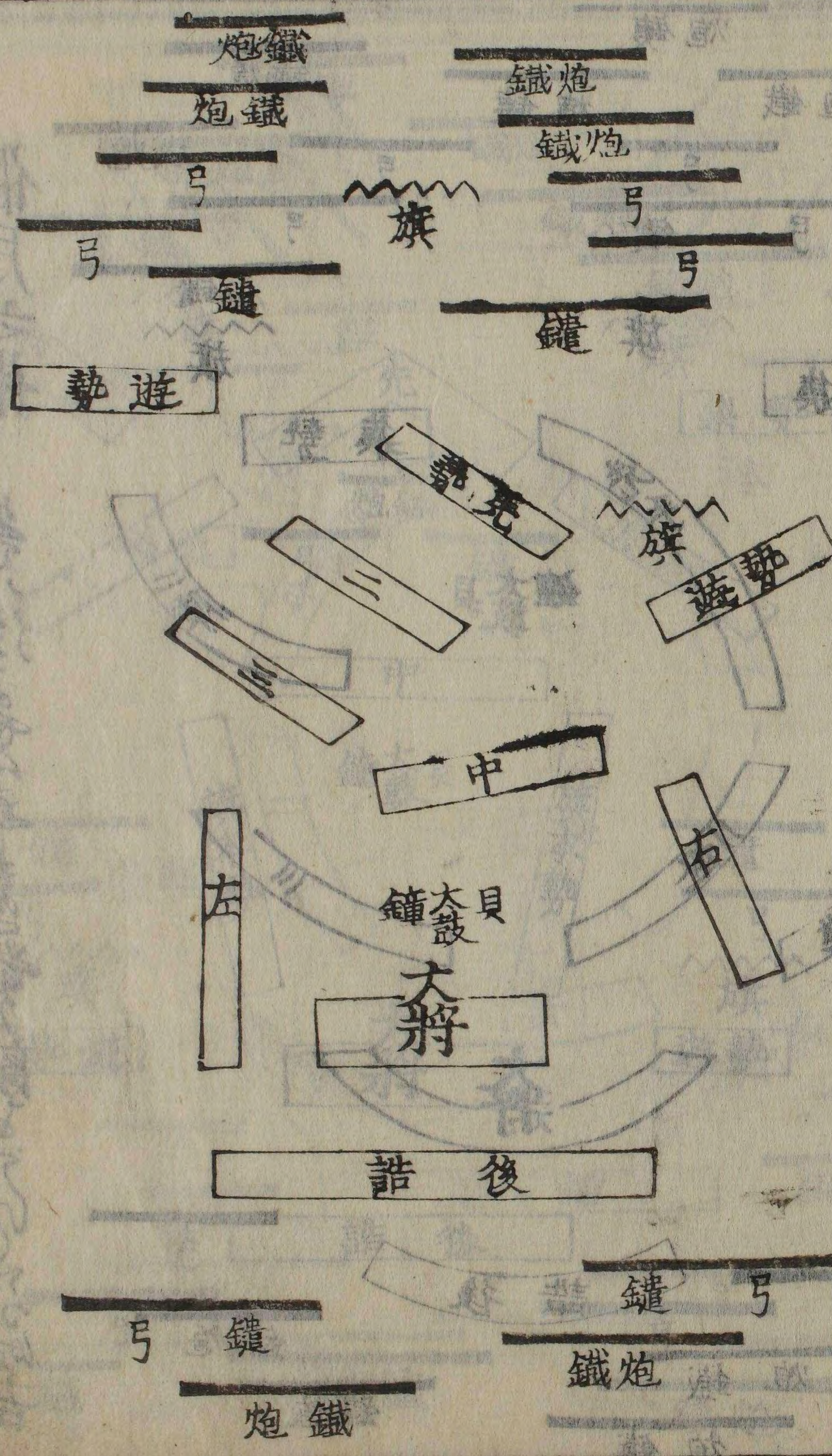
鶴翼之備

是敵一倍の勢を以て敵を包圍此備にて得利也



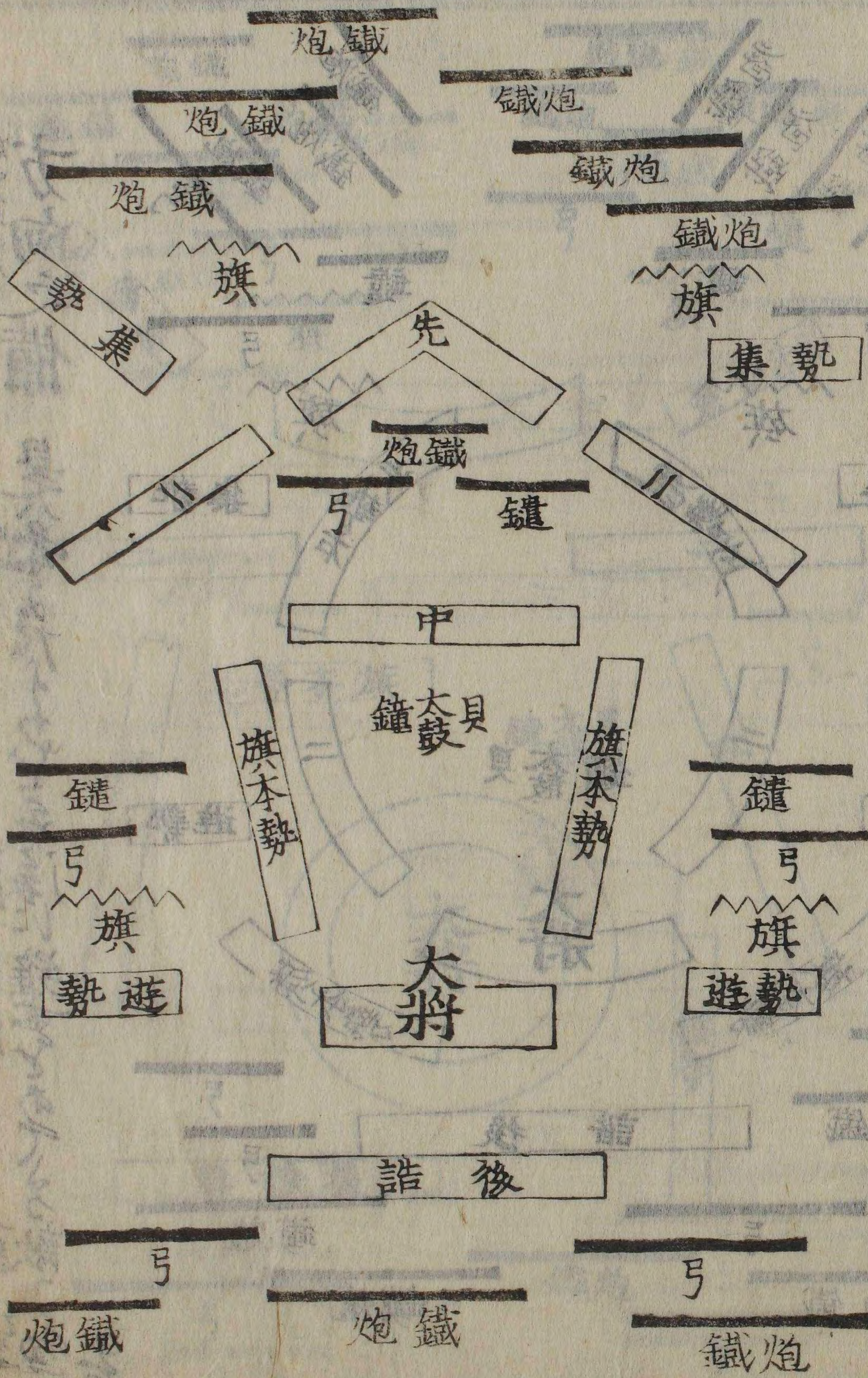
長蛇之備

是ハわさききり敵をとりまゝの儀也



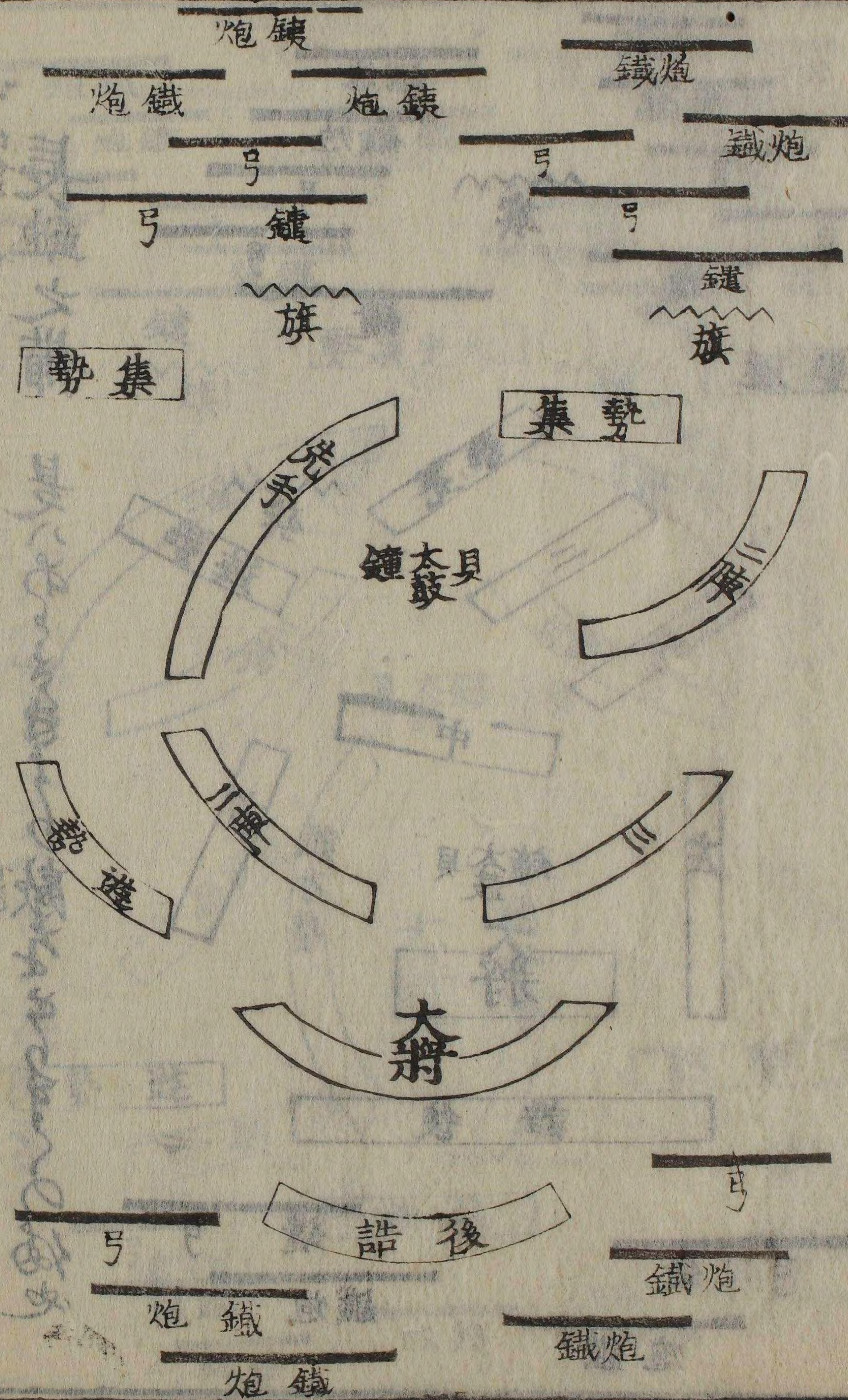
鋒矢之備

是ハかゝる敵に吉



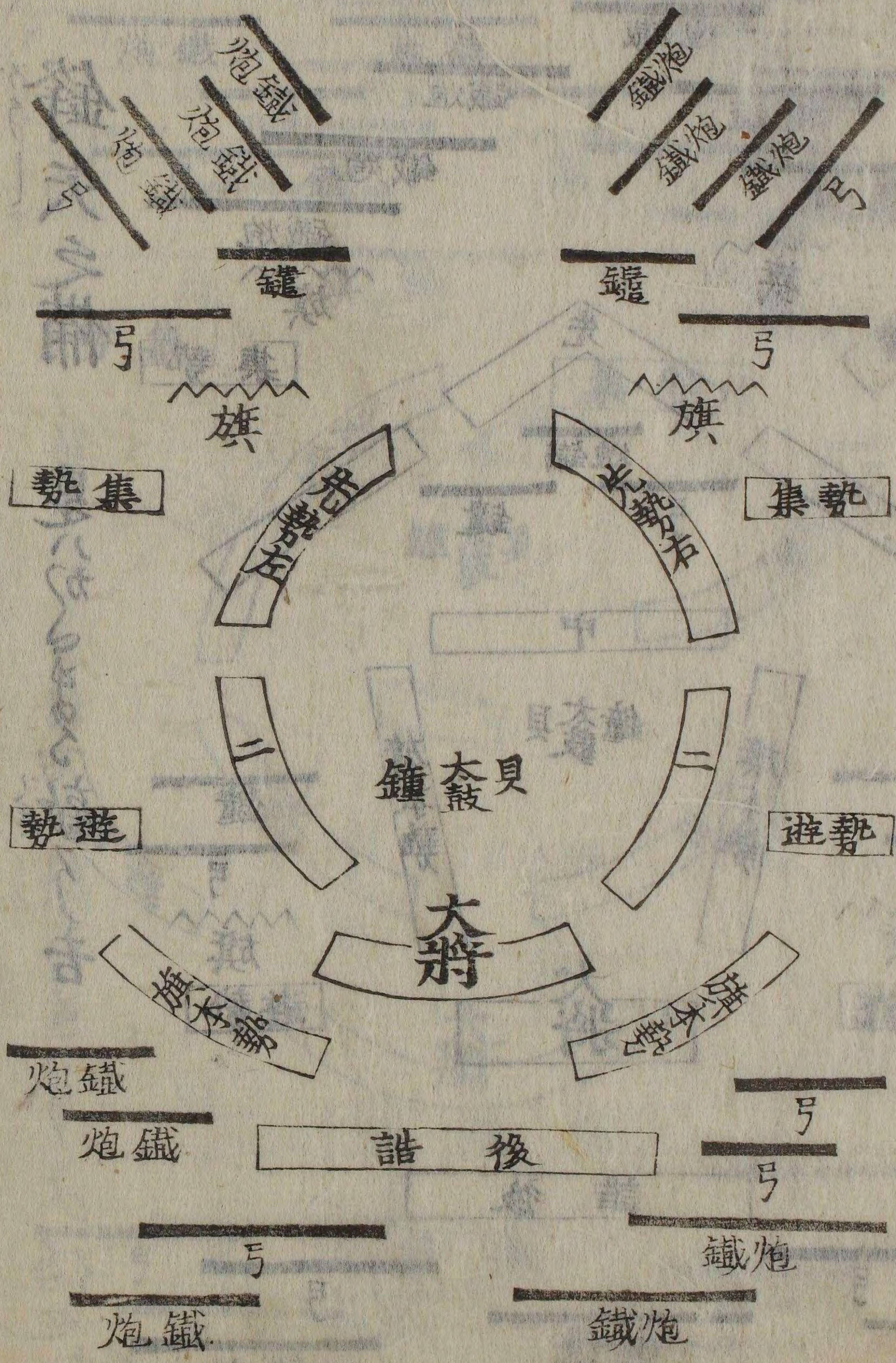
偃月之備

是ハかゝる敵に吉



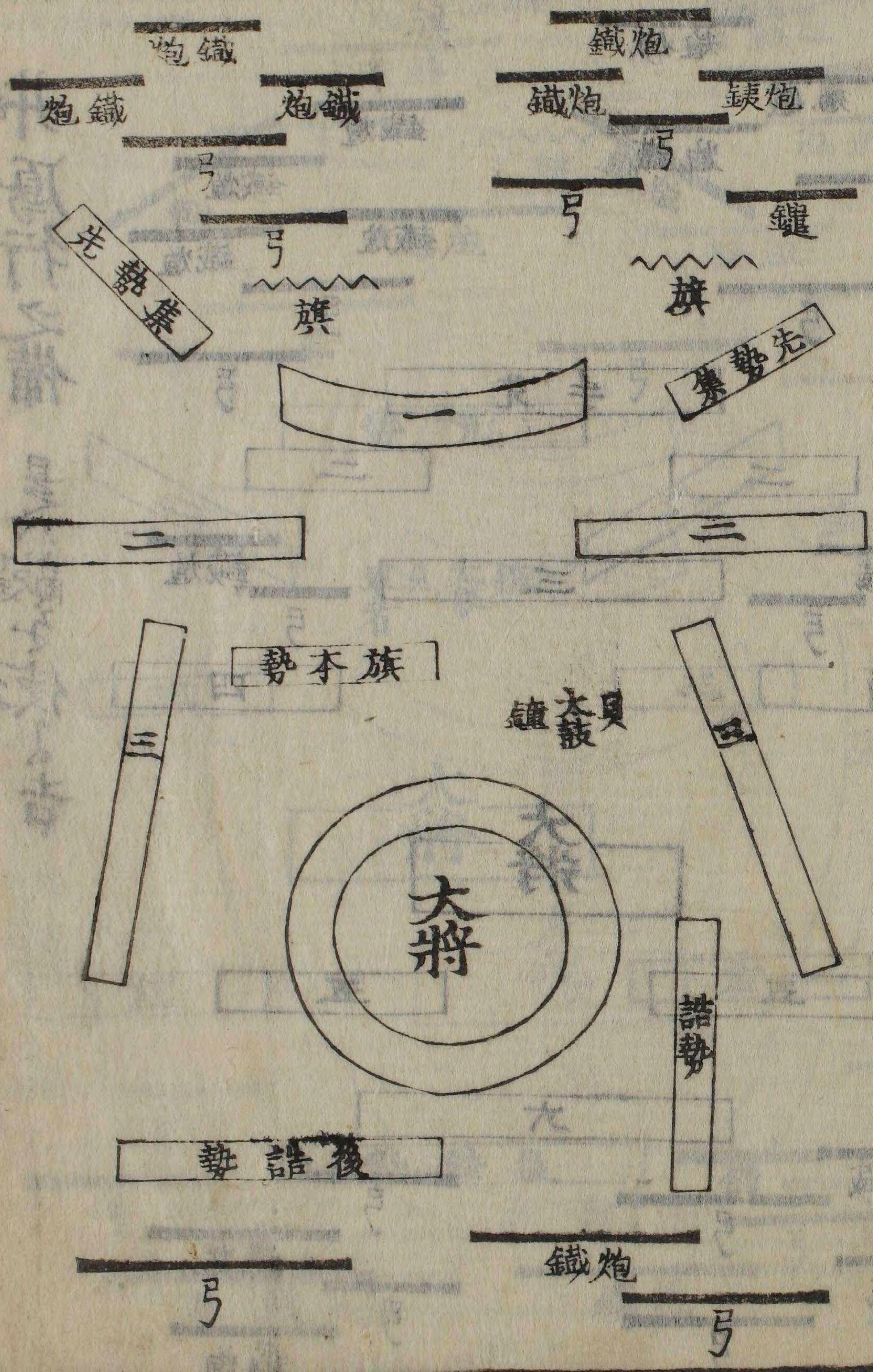
方向之備

是ハ敵方ノ勢敵倍の時敵と共ニめんための備也



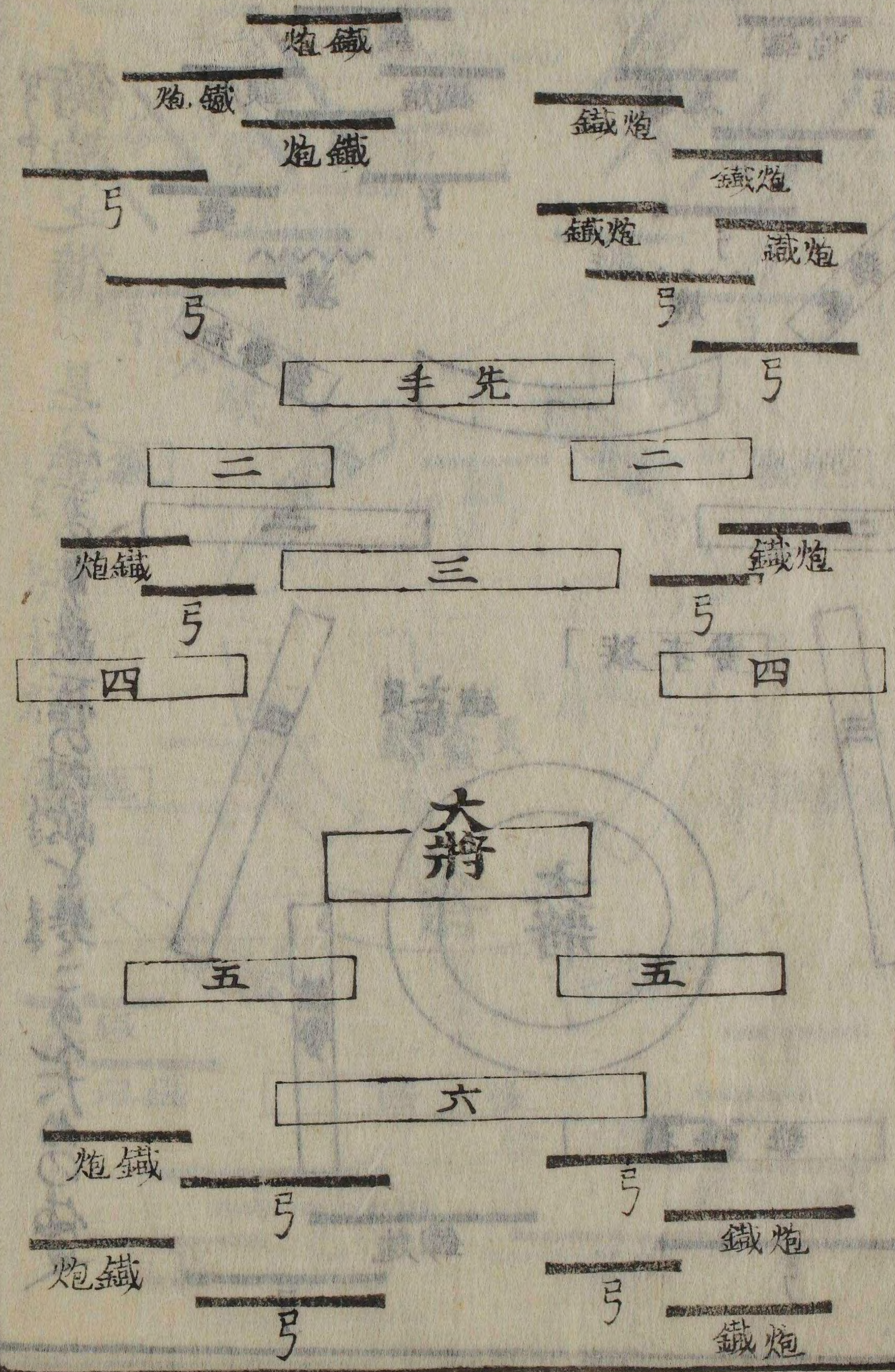
衡輓之備

是ハ味方ノ勢敵倍の時敵と共ニめんための備也



井鳳行之備

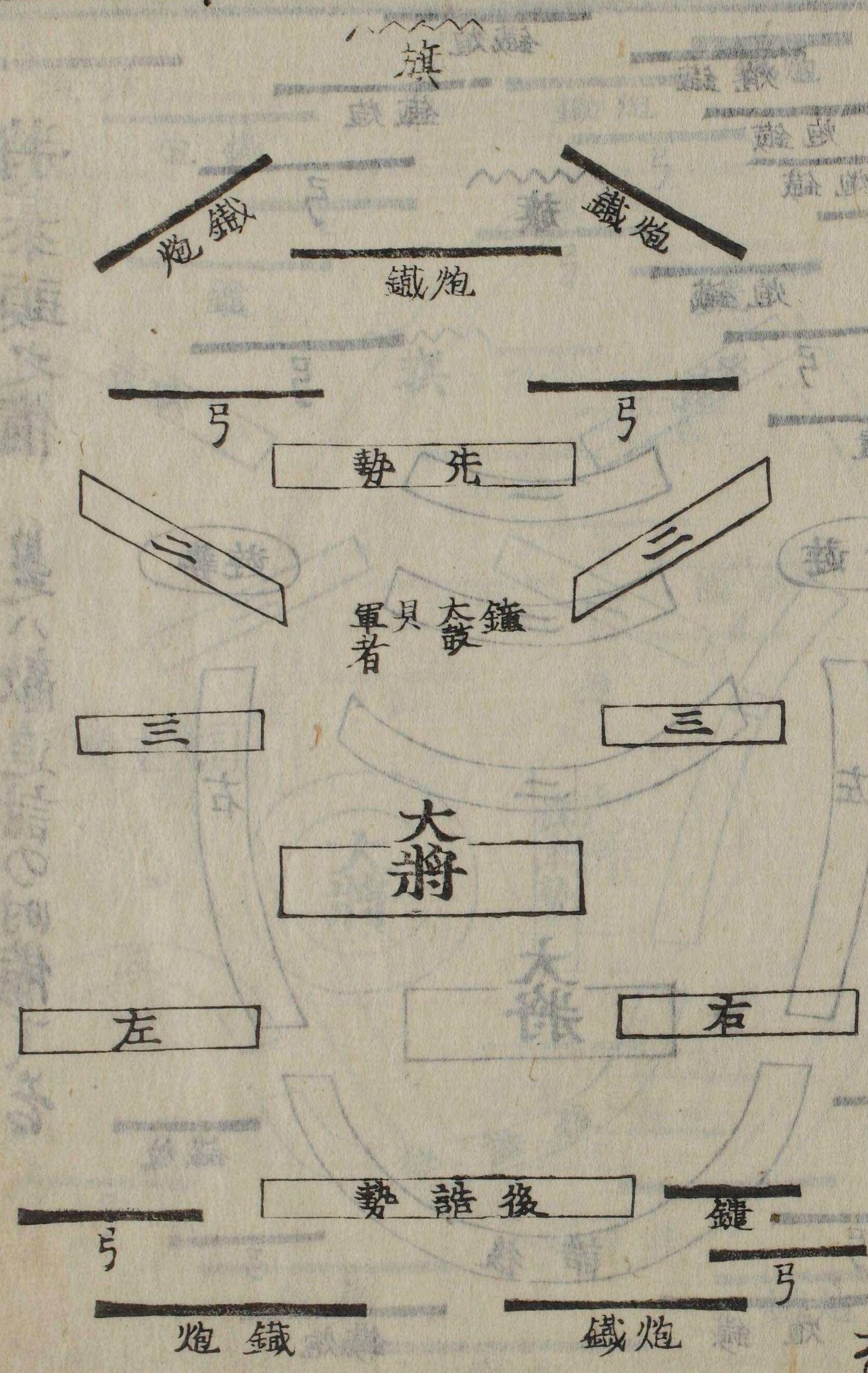
是ハ敵を使ふ吉

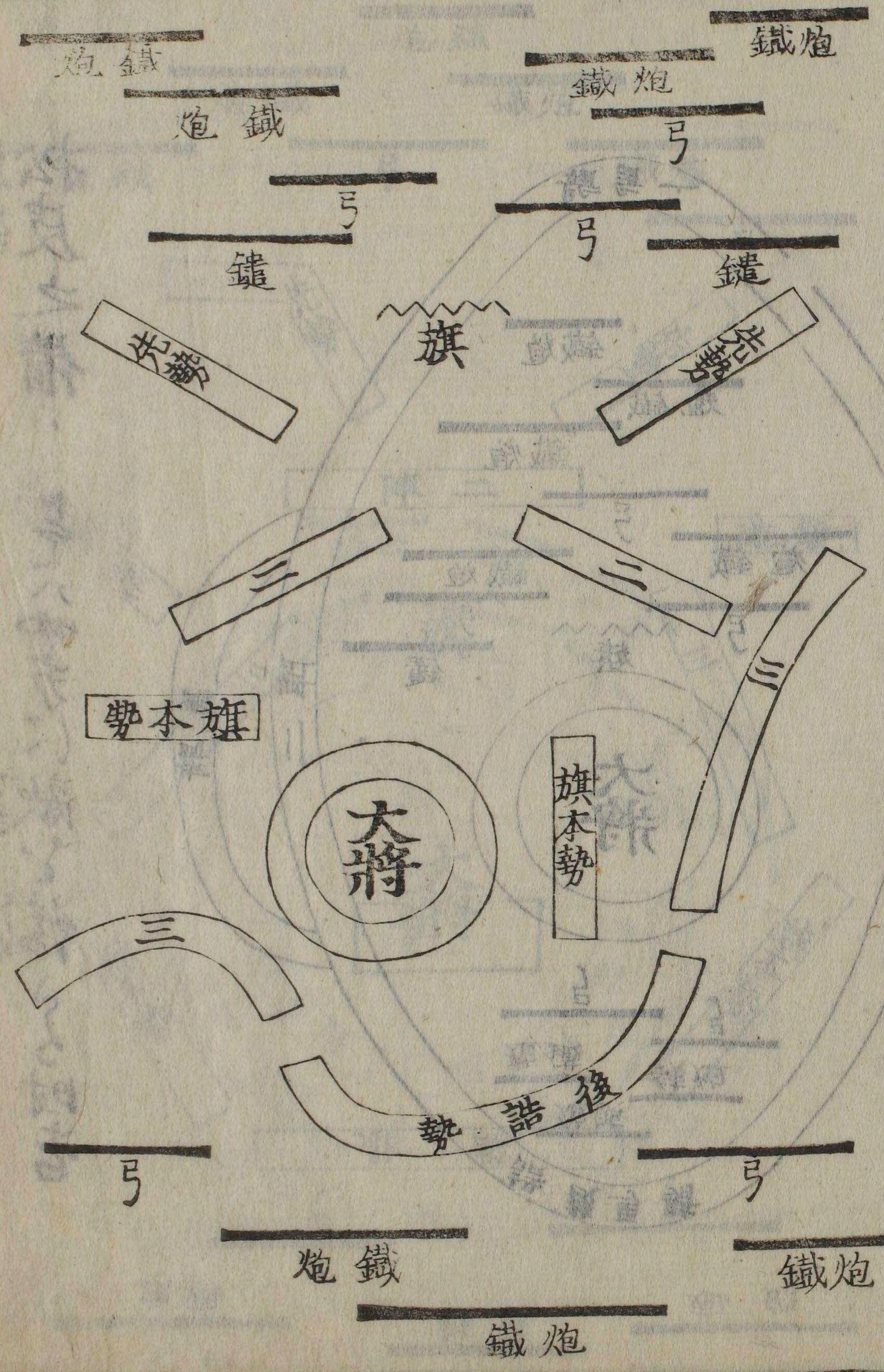


虎頭之備

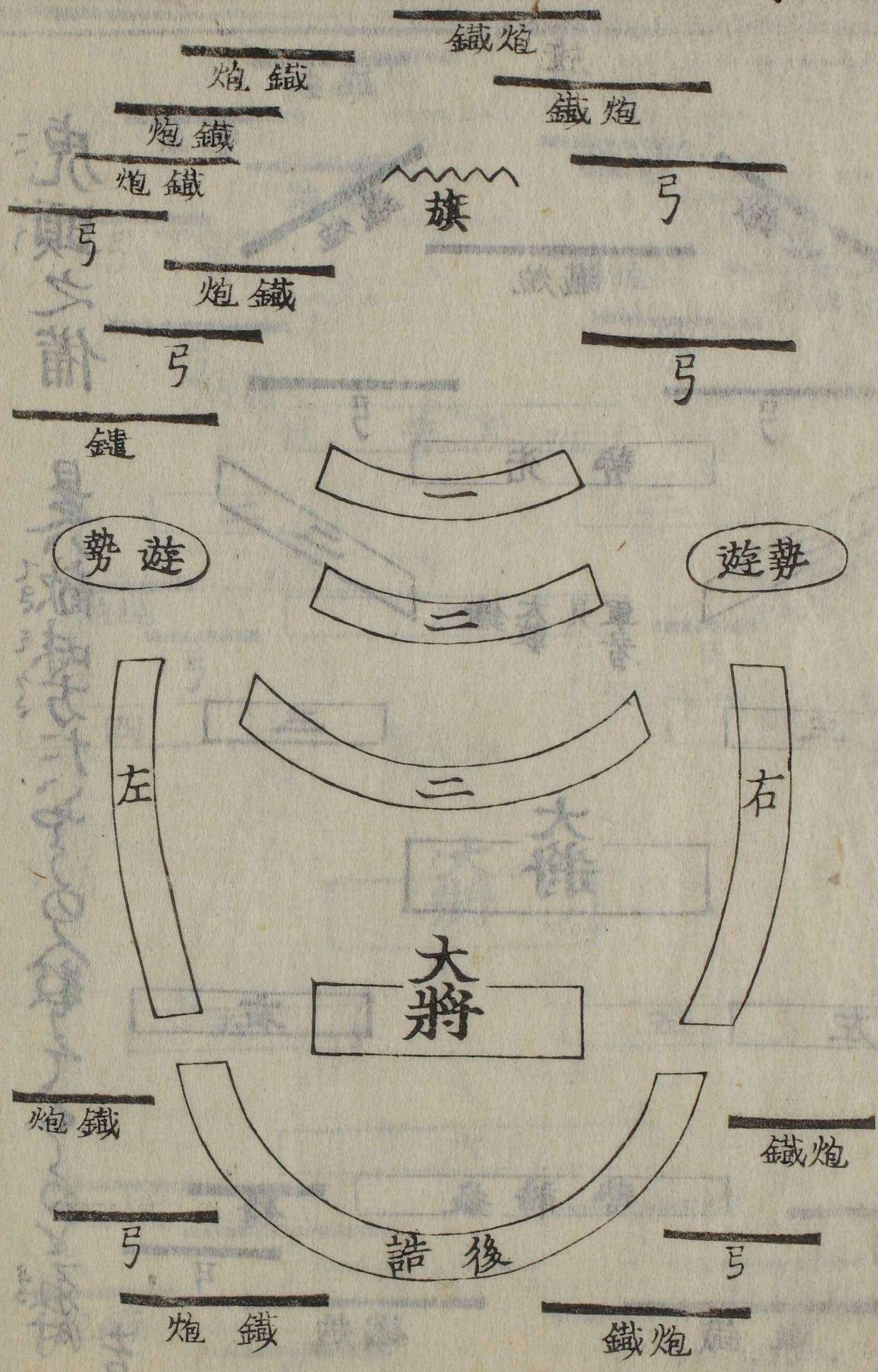
是ハ敵味方た、やうの人数をくゝるゝと敵討

吉





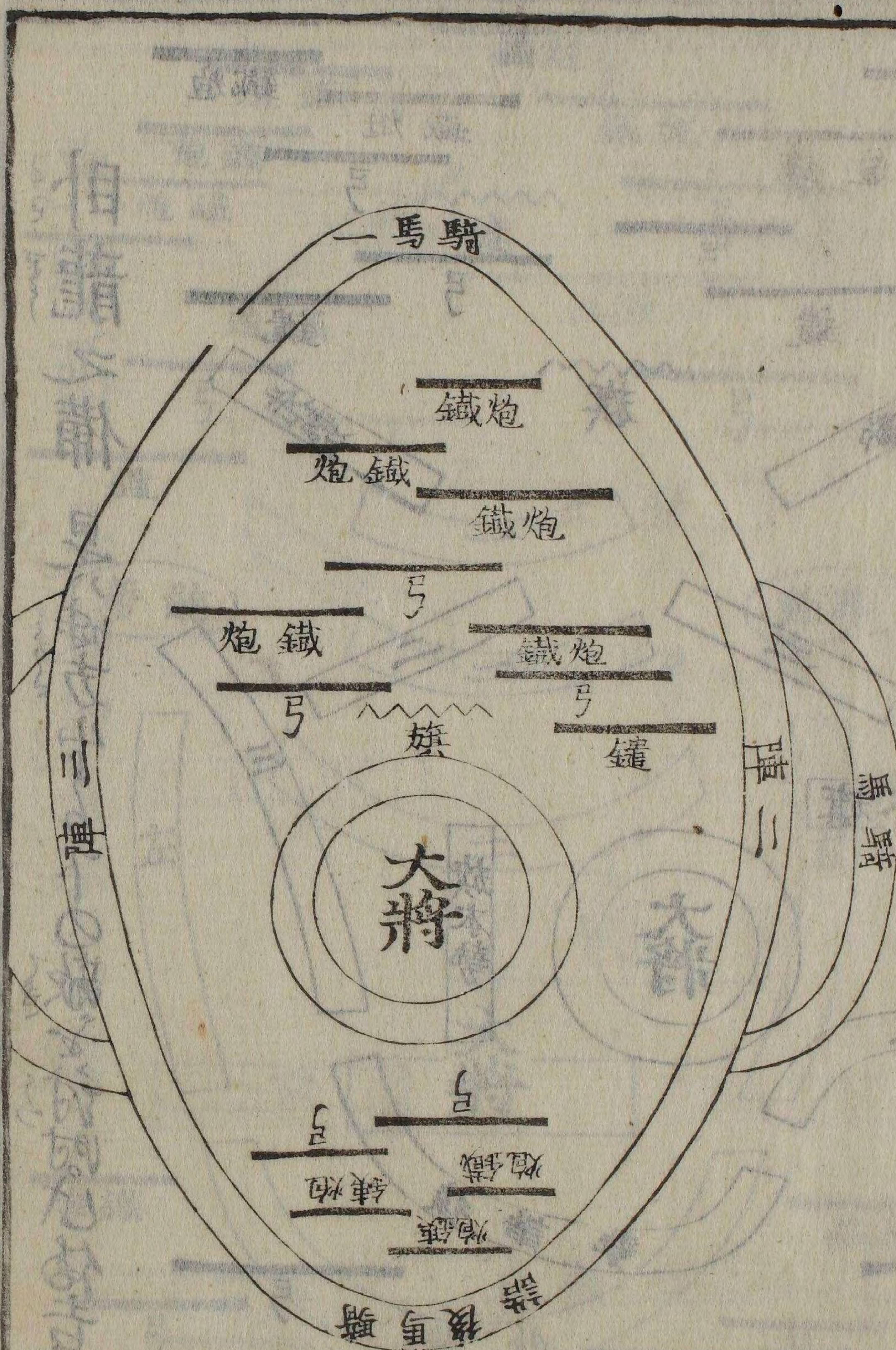
卧龍之備
 是ハ味方山下りの敵を討つに備ふ也



將基頭之備
 是ハ敵追討の時備て也

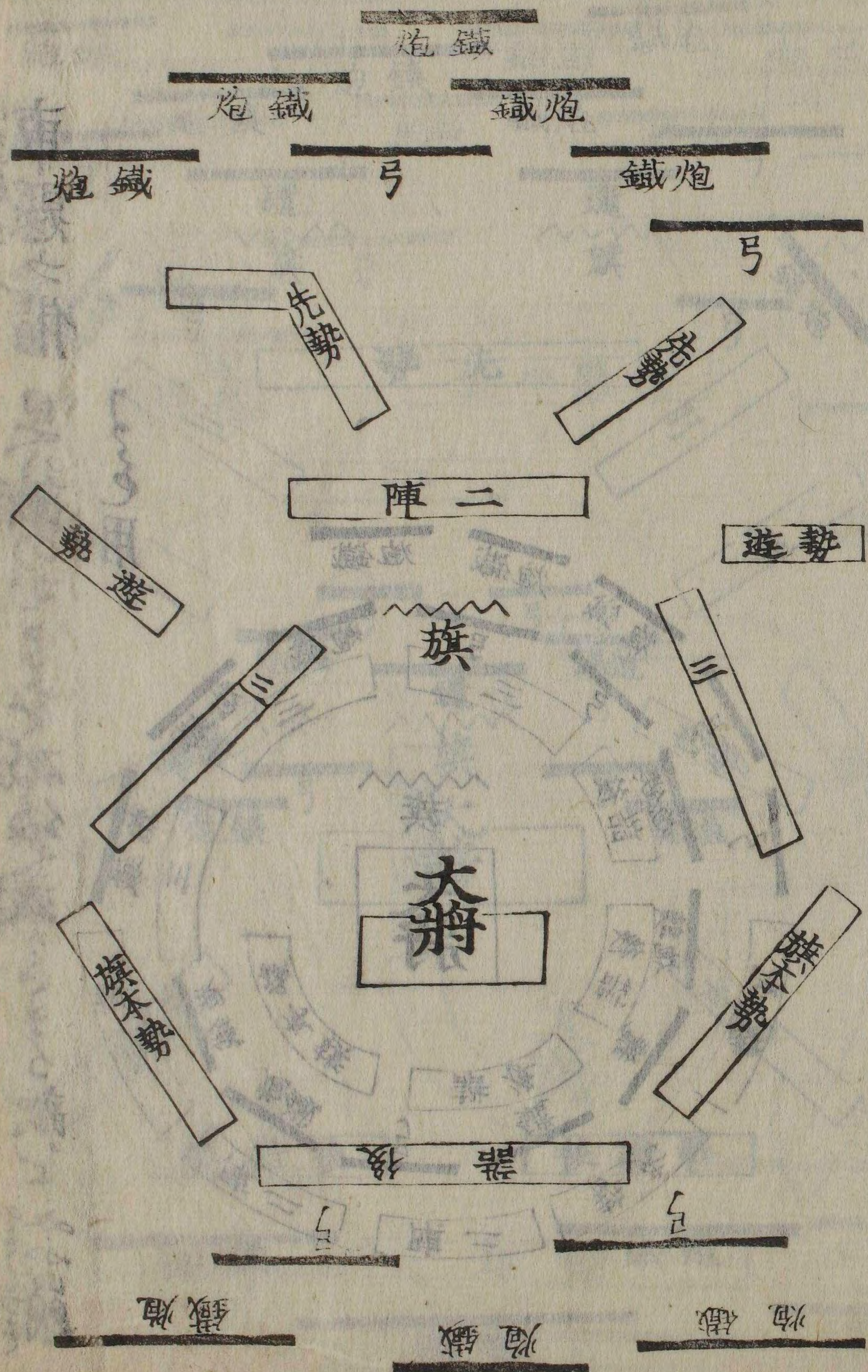
松皮之備

是ハ四方に敵を誘ふ時也



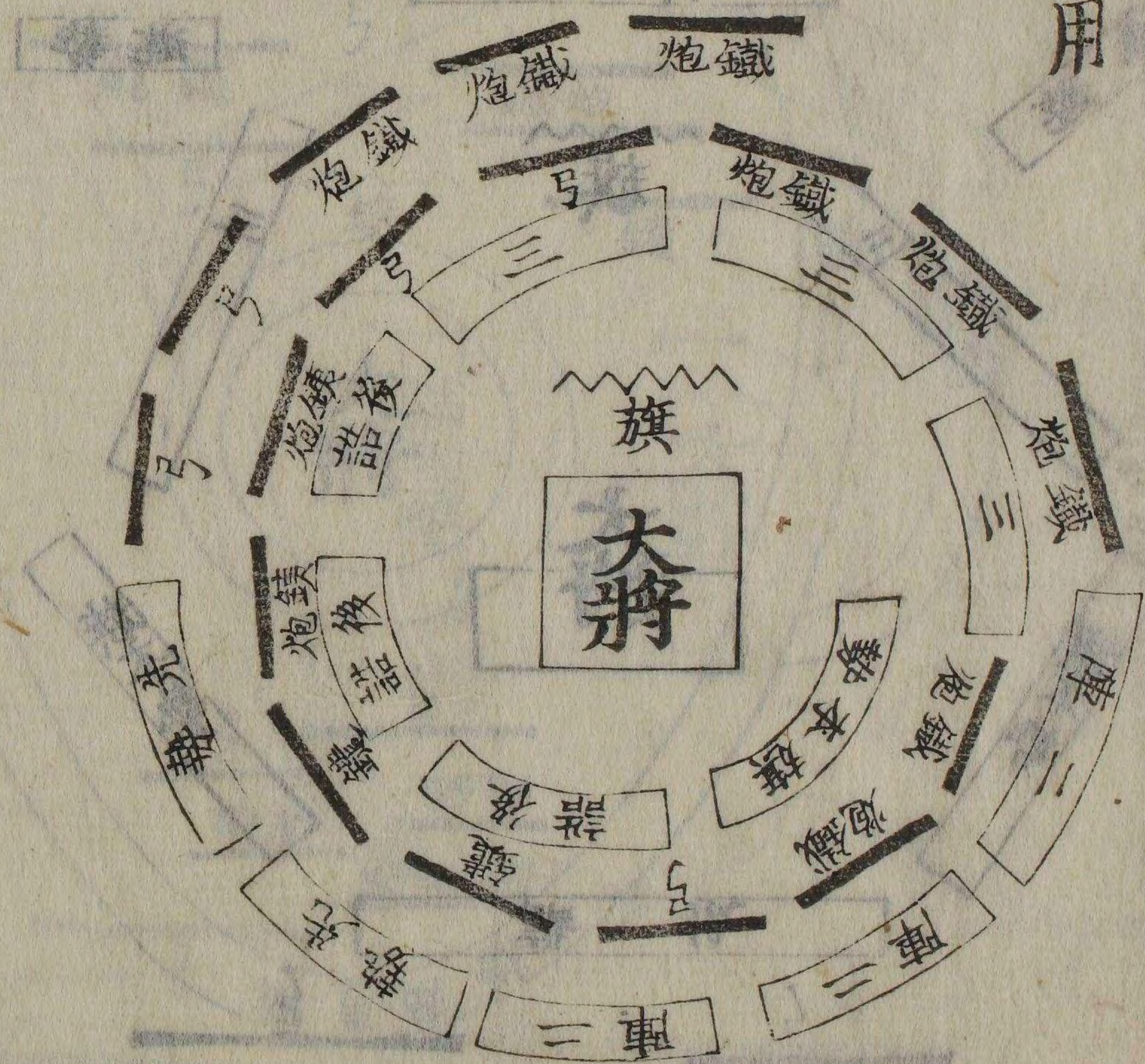
輪違之備

是ハ敵大勢味方小勢時森林よリテ守る時也



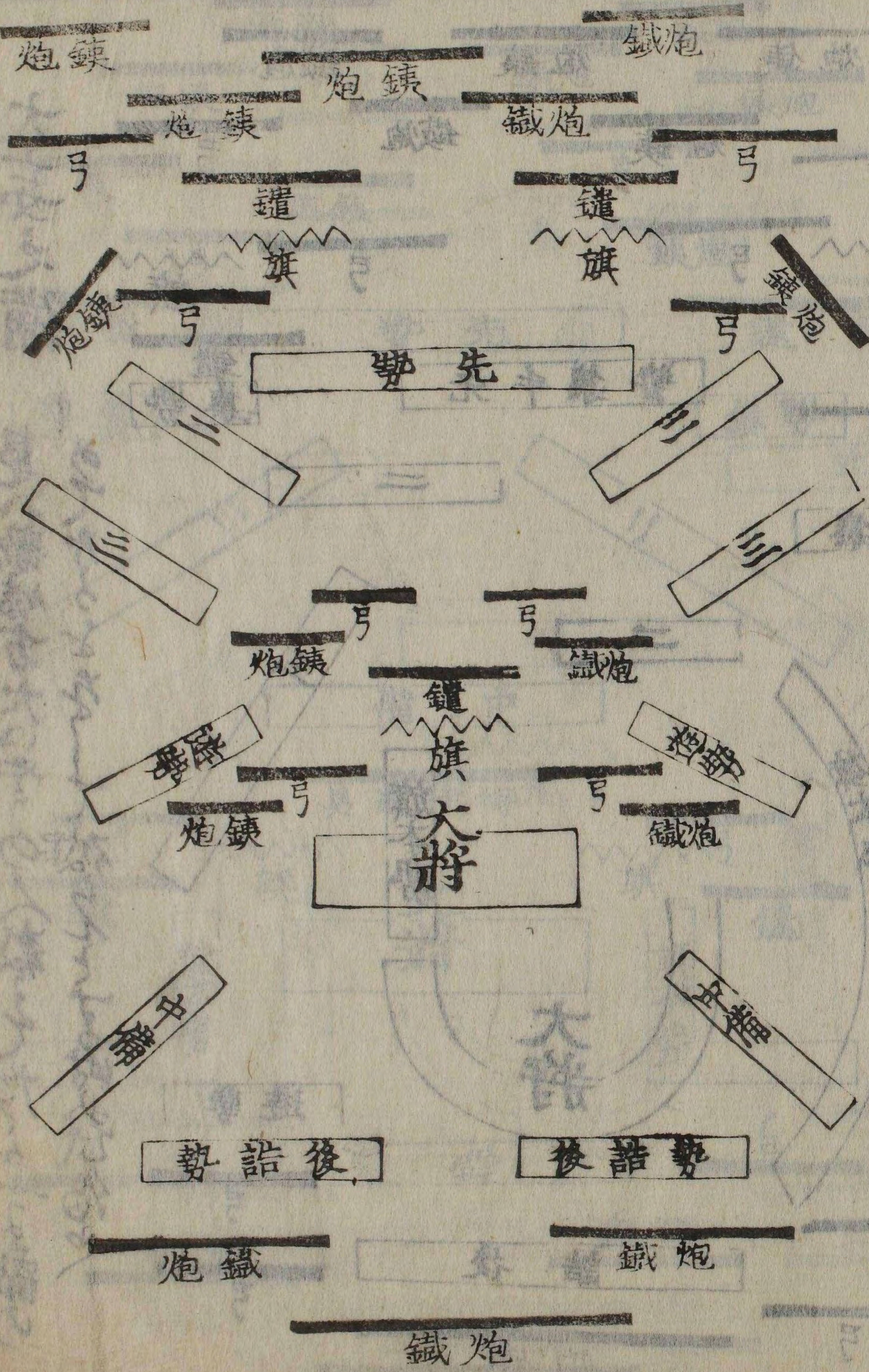
車懸之備 是ハ敵のかゝるを破破之或ハさる敵と云ふ山崩

とも用



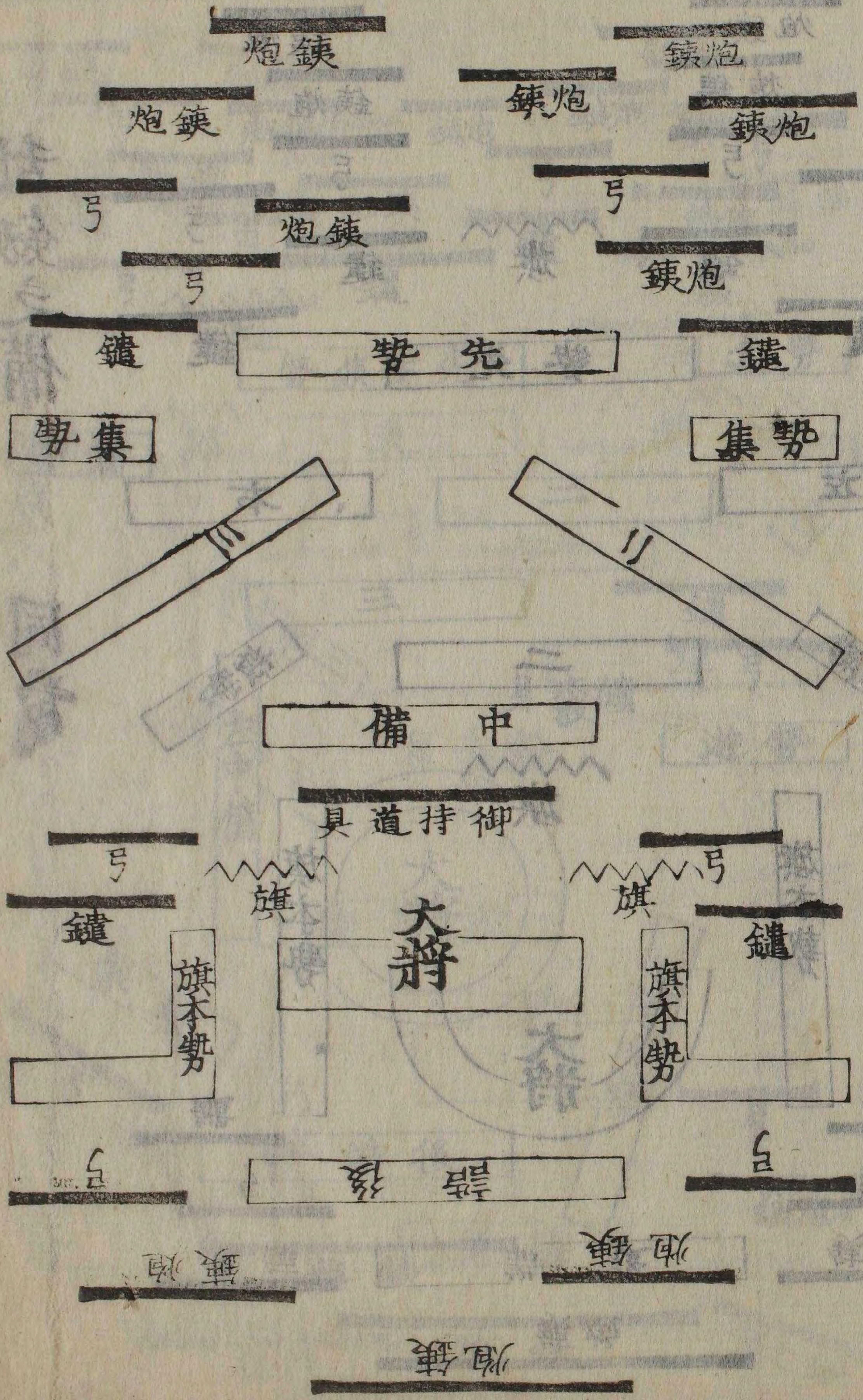
井馬行直之備

是ハ後よりとりを敵最ハ敵二方よりある時ハ勢



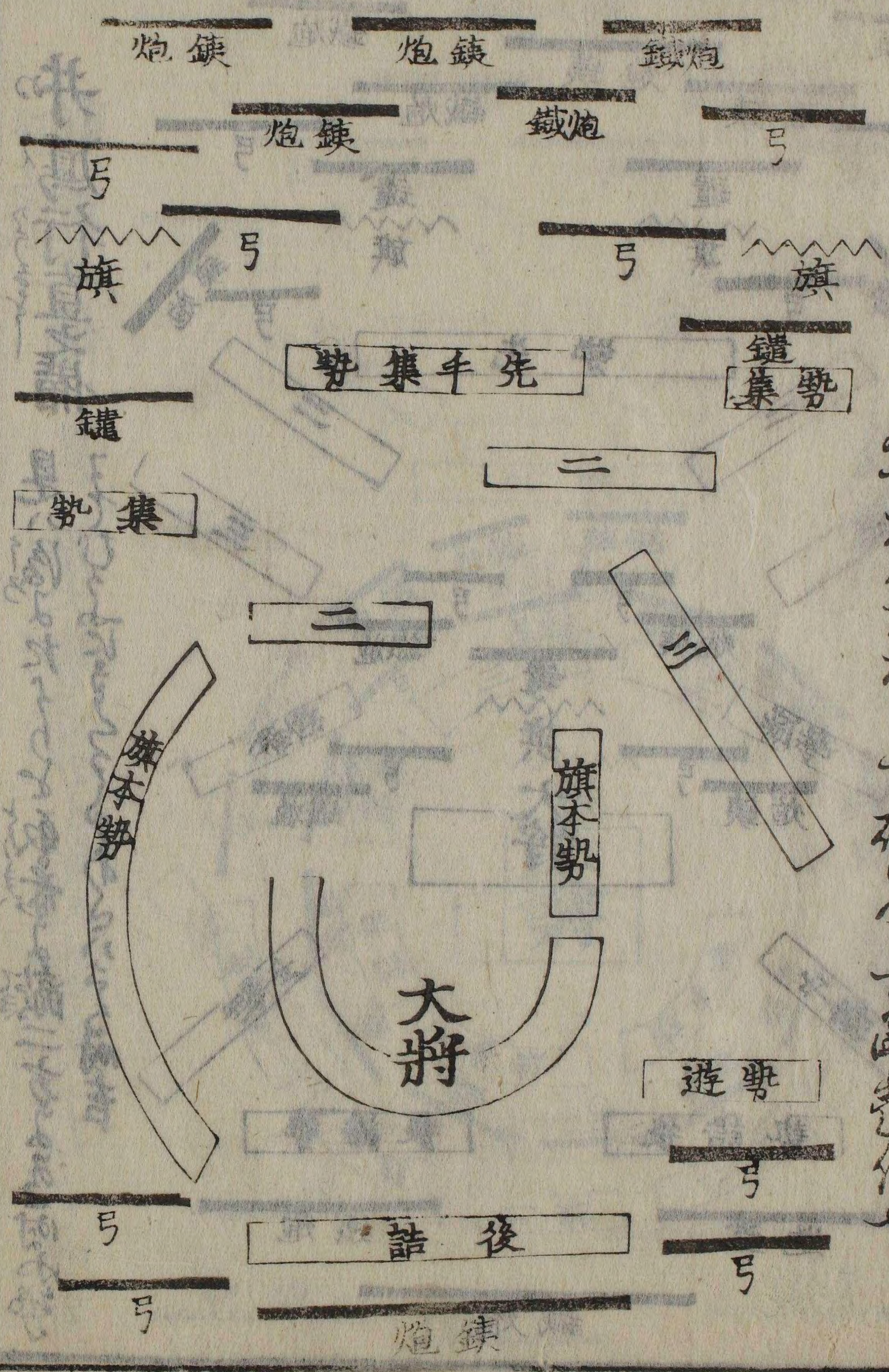
虎乱之備

是ハ前後の敵と我と右



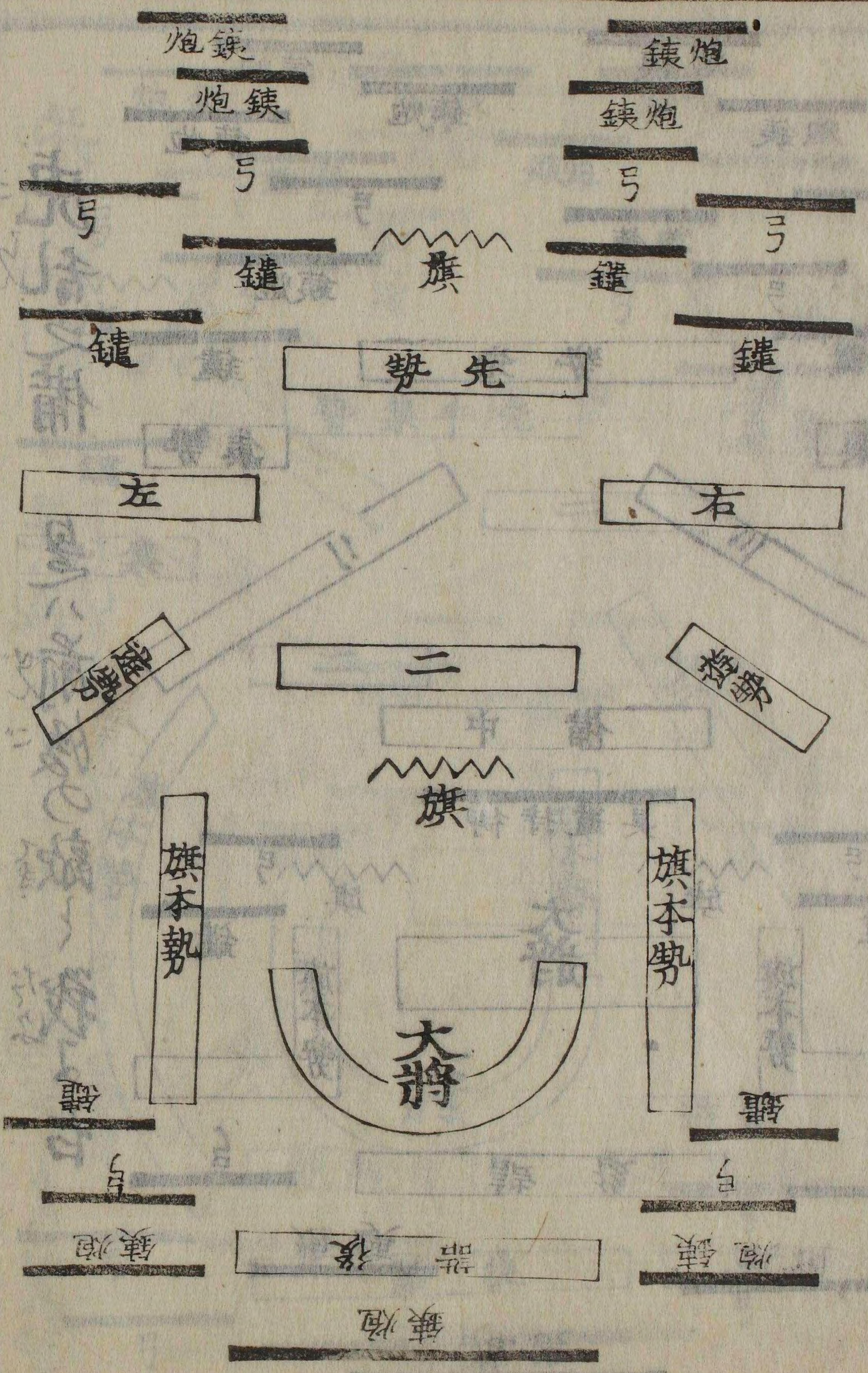
大妄之備

是ハ敵味方たやうの人數をたたりふ敵のめくたふをなして破れんとする時必し備や



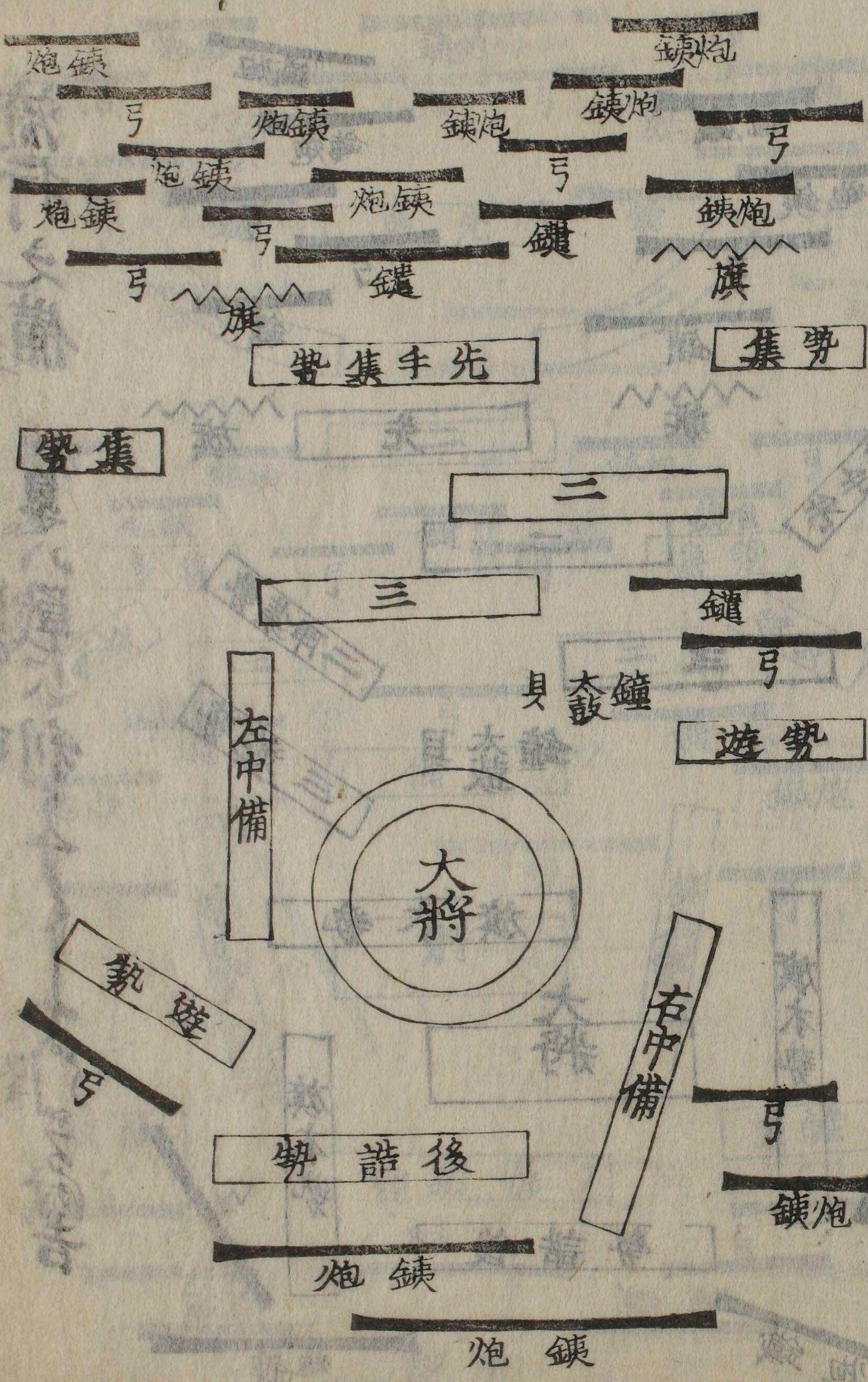
乱劔之備

同前



別手直之備

是八後よ山とあて大敵を待たる時吉



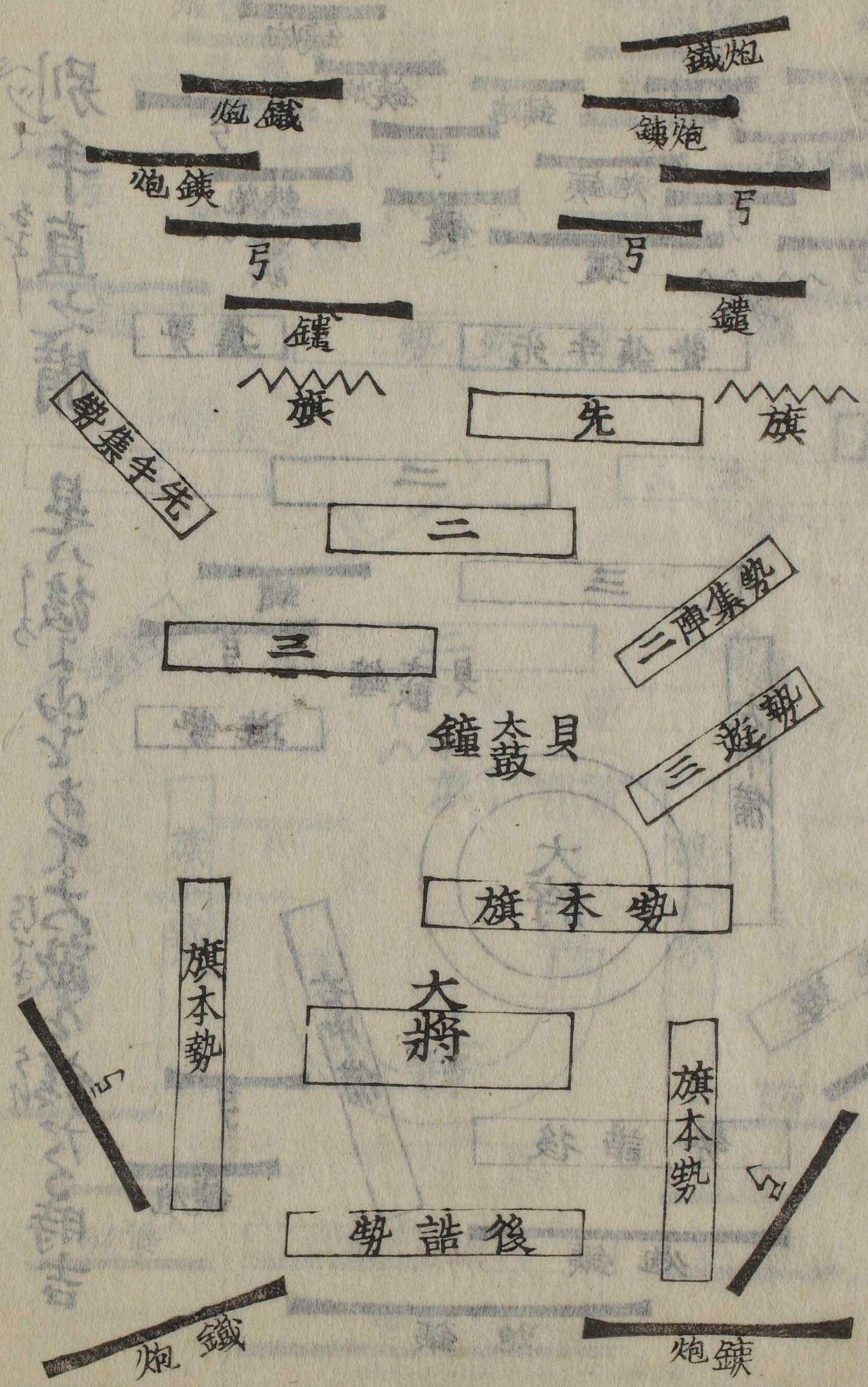
蒲上

二五

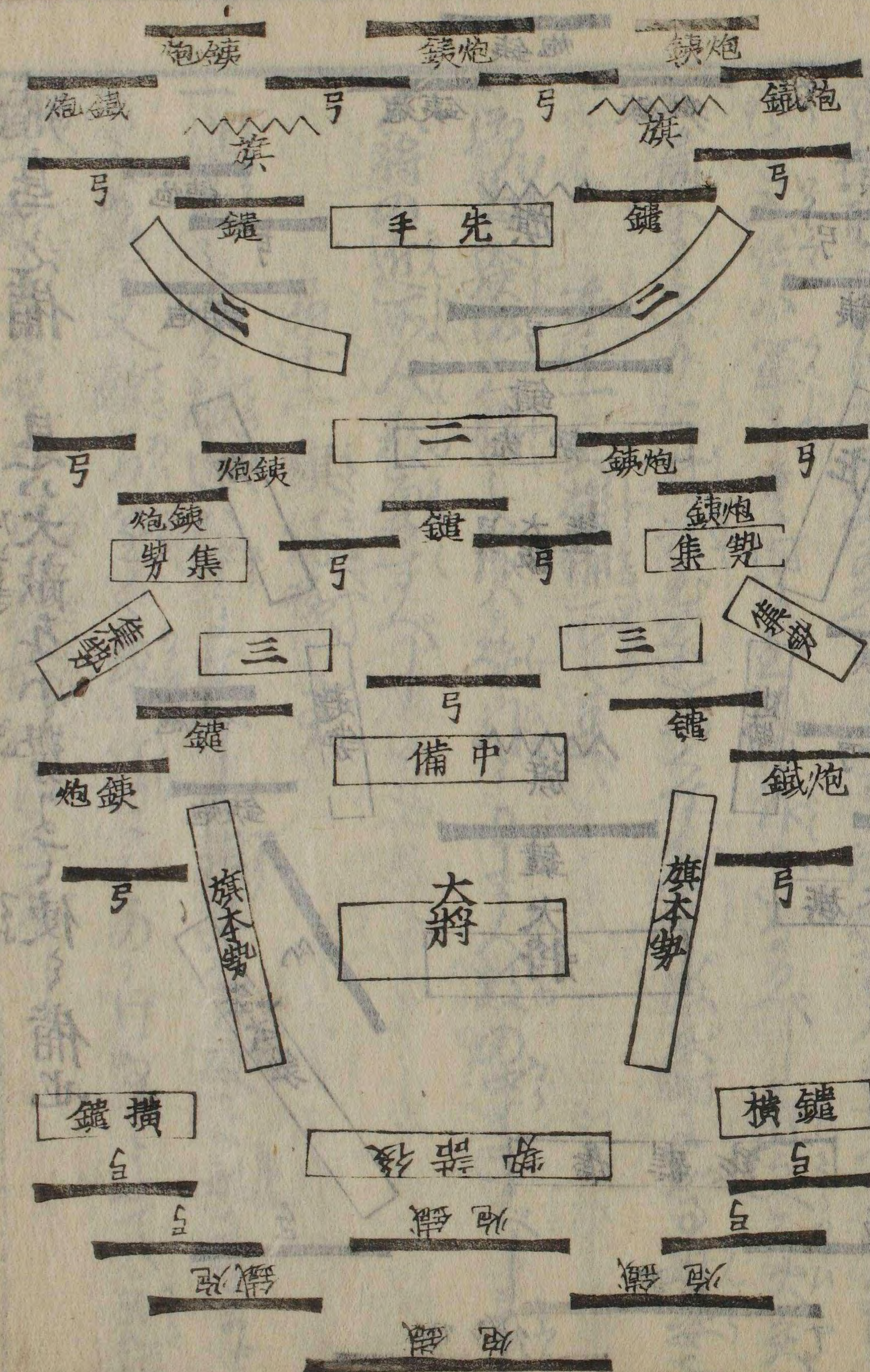
二五

流行之備

是ハ戰に利_るナク_てハ_いハ_き耐吉

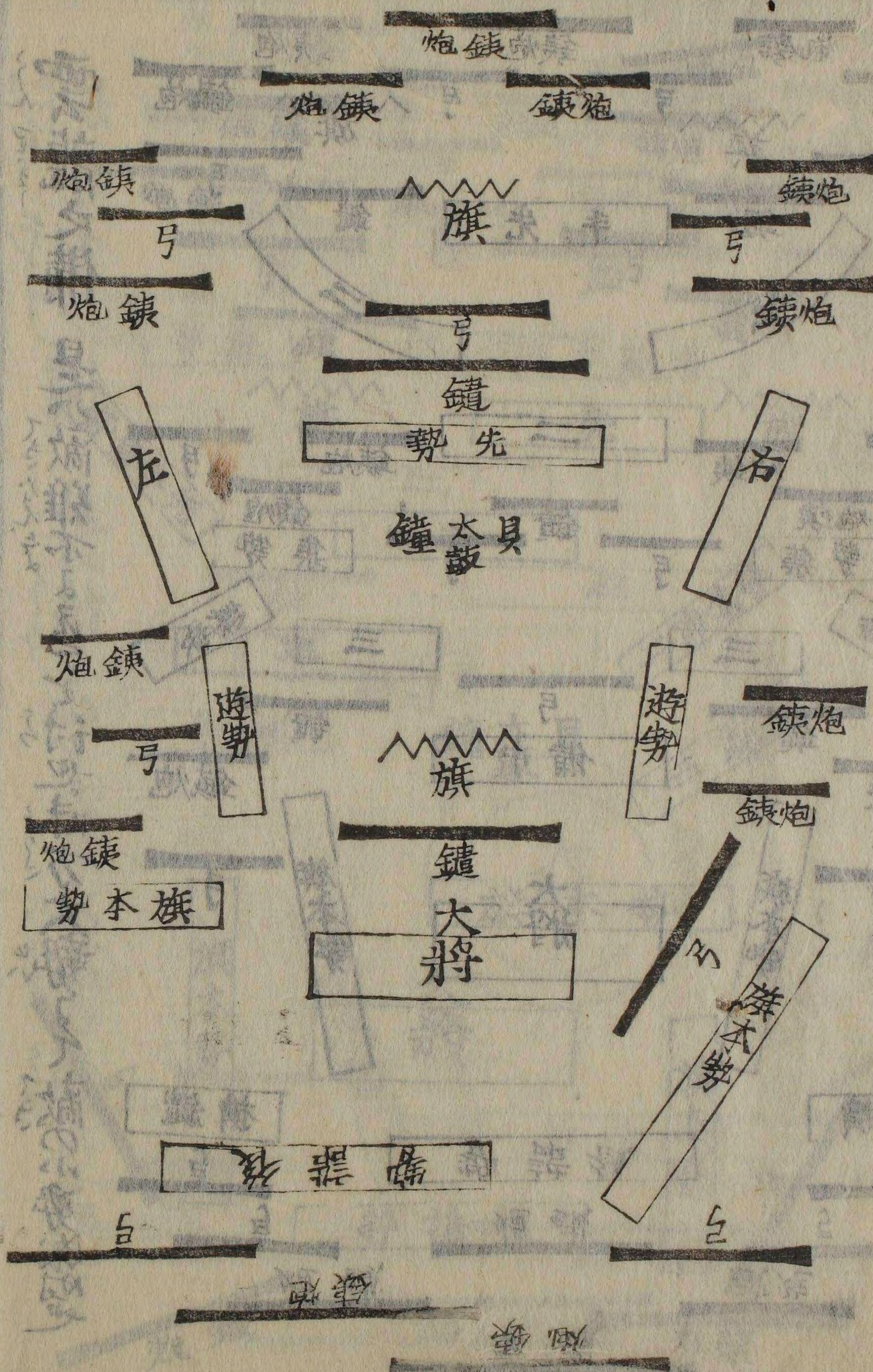


雲龍之備 是ハ敵難_くホ_るヲ_う討也 味方大勢_ハハ_い敵の小勢_ハハ_い



飛鳥之備

是、大敵を小勢よりして使ふ備也



右、近江の名將、玉得利の備とて、書くも、也。但、敵の仕
 事、地形より、て、玉、ま、ま、一、又、引、漢、炮、と、る、ま、ま、一、時、
 漢、と、入、信、の、軍、志、を、時、よ、ま、て、の、作、を、ま、ま、一、時、
 大、將、の、近、江、人、教、厚、す、べ、一、
 第十一、大將、備、お、く、ま、
 一、所、馬、強、い、大將、し、候、ハ、總、計、の、一、も、人、数、の、中、ま、ま、一、
 大將、の、近、江、人、教、厚、す、べ、一、

第十二、旗、備、お、く、ま、

一、旗、備、お、く、ま、。敵、近、江、中、ま、ま、一、。難、兵、を、取、り、ま、ま、一、
 一、所、馬、強、い、大將、し、候、ハ、總、計、の、一、も、人、数、の、中、ま、ま、一、
 大將、の、近、江、人、教、厚、す、べ、一、
 一、旗、備、お、く、ま、。敵、近、江、中、ま、ま、一、。難、兵、を、取、り、ま、ま、一、
 一、所、馬、強、い、大將、し、候、ハ、總、計、の、一、も、人、数、の、中、ま、ま、一、
 大將、の、近、江、人、教、厚、す、べ、一、

子

子

子

十

十

第二十五回 追討心ならず

一勝軍は敵と追討す。敵はいまを待たず追討すべし。なぐら
ら海軍の勢をすべし。他國旌人かきさるひのせいさう
と。又人殺し國旌の下知しきさるべし。具大敵勝をさ
るにさるひ。是れとこれのせいなり。

第二十六回 追討心ならず

一勝軍は敵と追討す。敵はいまを待たず追討すべし。なぐら
ら海軍の勢をすべし。他國旌人かきさるひのせいさう
と。又人殺し國旌の下知しきさるべし。具大敵勝をさ
るにさるひ。是れとこれのせいなり。

事成。一勝軍は敵と追討す。敵はいまを待たず追討すべし。なぐら
ら海軍の勢をすべし。他國旌人かきさるひのせいさう
と。又人殺し國旌の下知しきさるべし。具大敵勝をさ
るにさるひ。是れとこれのせいなり。

第二十七回 物々使番人

一勝軍は敵と追討す。敵はいまを待たず追討すべし。なぐら
ら海軍の勢をすべし。他國旌人かきさるひのせいさう
と。又人殺し國旌の下知しきさるべし。具大敵勝をさ
るにさるひ。是れとこれのせいなり。

也或ハ鶴翼ノ向時の俸矢ノ味方と備。敵終矢ノ味
方と二ノよこりて。中を助て備或ハ敵ノつてまれの時を
いけこの備よりと。松皮征月魚鱗ノにまを。又備備
みれまゝの時。征月ノ。大方おひに依時依終へし
或ハ味方お立て。一も入る矢ノ。射れと集てやせや
よ。惣おれや。大將の才。先敵のころ。すすめを
つくさへ。又味方と總破れとせ。敵とつもんるを
也。敵又味方とつもんせ。おをぶてんと。甲お。さ
敵ノ習て終とと。或。或敵陣の前の。馬がこ
里を。總敵。心。後。か。立ん。敵。心。又
ま。げ。と。小。と。付。敵。と。下。減。軍

の。備。物。之。の。眼。あり。と。新。と。さ。へ。大。約。へ。一。
志。依。一。家。中。の。侍。吟。味。の。よ。て。武。勇。が。智。人。は。役。を
作。何。う。と。物。え。あ。ま。く。心。は。一。大。事。の。役。と。お。ひ。日。比
軍。と。や。け。終。べ。又。使。番。物。之。と。回。意。され。も。少。し。得
は。り。也。依。武。儀。ハ。敵。の。色。と。て。使。番。は。後。使。番。を。子
細。と。味。方。は。泡。を。い。て。なり。使。番。の。指。お。た。け。なり。軍。勢
足。知。り。る。え。一。歩。行。て。さ。の。及。さ。り。あ。や。も。由。は。走。廻。は
よ。り。て。是。程。と。云。也。は。五。ハ。物。之。ハ。歩。行。の。程。致。役。い。は。れ。の。物
致。指。物。致。場。は。な。る。と。云。物。之。の。指。お。ひ。と。さ。と。は。立。可。致

第十八 山と陸たる戦と夏

一山と陸と。一。戦。は。な。り。山。の。が。り。と。さ。と。と。一。は。時。を

卧龍すくふ備よみ細八味方と邪さあせせしむるたみせ
 味方の人数さあは備て下坂とるすにすく又敵よか
 ことさうきてハ先うめして下坂のさうなよとつとみせ
 此時漢炮弓と先よきてたむうらふさる敵のさき場
 不攻進ち中備後佐のまけもなくひとめあつて時
 漢炮よとそきてすさまううとせぬは敵こらへし
 ふより峰さうて下坂までいひんく敵よ息とれせす
 追討し金一又の色よも足なもれをよ或八家より
 ちと備ち敵よと追付金うび

第十九川と隔る軍入夏

一河を渡さへる軍よ水にづりあつたあへむと人

と入れのきれ又なよ細とるうとがひ波さるあへ
 くあさまうお岩とまきあへあうはせしとみま
 あさあとちるまき勢の渡川下ハ渡さるのせさるま
 越方からあへる勝なり又敵をやく川よ入る時味方乃
 際ううめし川のせよ敵とれはあさとつと
 けうちとる金さ也此時是れは早く川をうのり或
 ハ戦ちくけしをあつてあせがせぬへ一時さる百人
 と十あよと備えべ一又流つまきあへる川上は備て敵を
 見ゆらうしりか勝多されハ退にやまこのたあうと
 漢炮ハ森林をるの敵橋山ざととにきいてと入て
 すりなり敵よ具よととるよ又奥よととる漢炮

て船とさう。或はまげねに。内と外と。あちよてなり。又あるを
たぬ。ぐい。ち。水をたぬ。きてもある。さう。さう。さう。さう。第一
城乃。縄張。も。あ。の。ま。さ。第一とて。第二。第三。は。接。つ。ら。
三。つ。と。観。べ。或。は。山。け。り。さ。に。せ。つ。け。或。は。流。さ。ん。き。り。
る。さ。ん。大。將。の。内。性。は。合。て。城。の。む。き。さ。り。接。は。他。も。さ。
た。接。る。気。合。は。理。あ。る。又。城。は。勢。へ。さ。あ。る。手。飯。あ。
め。さ。り。千金。さ。り。とい。ふ。も。飢。え。た。す。さ。る。さ。ん。た。第一
の。ま。は。毛。と。と。り。接。い。奥。は。城。作。心。持。有。
第二十三。大。勢。と。小。勢。と。討。つ。た。り。

石。し。必。は。敵。味。方。の。人。数。に。依。り。位。の時。也。大。勢。と。小。勢。と。討。
つ。た。先。敵。の。さ。す。さ。り。と。い。ふ。も。心。持。へ。兵。伏。蟠。或。

は。是。場。は。用。心。と。て。懸。も。あ。る。は。も。一。度。は。海。さ。り。さ。り。
れ。第一。大。勢。の。備。は。大。の。事。あ。る。と。い。け。り。さ。り。勝利。多。く。は。
味。方。二。千。騎。敵。は。一。千。騎。も。た。り。さ。り。七。八。百。騎。も。あ。る。
さ。り。味。方。と。さ。り。さ。り。さ。り。さ。り。味。方。は。百。騎。と。い。ふ。
向。り。さ。り。さ。り。三百。騎。一。と。敵。の。後。より。廻。八。百。騎。一。と。味。方。
の。旗。ひ。と。さ。り。是。場。も。さ。り。さ。り。か。は。へ。二百。騎。は。も。二。百。
騎。は。是。は。大。の。接。接。と。入。る。さ。り。さ。り。小。勢。の。敵。と。追。包。
接。は。是。は。敵。敗。軍。の。色。は。さ。り。味。方。の。接。接。の。さ。り。一方。
は。味。方。の。旗。ひ。と。さ。り。さ。り。味。方。と。さ。り。追。接。へ。是。一方。
と。さ。り。い。也。向。へ。さ。り。さ。り。さ。り。別。あ。る。さ。り。さ。り。敵。の。人。
数。と。接。は。是。は。要。也。小。勢。を。つ。ま。ん。と。大。勢。崩。れ。と。

くハ勝利なり。或ハ敵二千味方八百むきの時。又さう
さう。え。あ。は。は。り。は。か。て。難。を。な。す。の。一。は。八。百。の。残
一。は。二。百。外。備。三。百。先。一。百。う。ま。け。三。百。旗。じ。と。定。は
う。さ。け。ハ。表。裏。の。民。者。是。と。敵。を。さ。う。難。を。の。さ。う
外。に。難。を。合。て。弓。換。炮。う。て。う。ち。立。是。れ。る。時。味。方
と。も。や。ち。追。進。も。大。勝。認。免。も。う。と。う。工。軍。の。乱。は。ハ
み。人。十。人。功。う。る。者。み。そ。あ。と。あ。ん。と。て。も。さ。の。せ。と。味。方
よ。と。立。られ。ふ。と。事。成。ぐ。さ。の。な。り。是。も。い。ふ。の。の
立。なり。か。れ。の。し。う。一。又。あ。い。心。を。さ。う。さ。う。肝。要。さ
又。大。勝。乃。將。ぐ。て。人。數。を。た。の。ま。お。ほ。り。弓。斷。を。の。そ
む。或。ハ。小。智。の。み。知。り。て。味。方。の。三。合。作。法。を。と。定。り

首。尾。入。の。な。り。ハ。あ。や。し。或。ハ。俄。の。て。そ。う。と。大。勝。の。不。同。心
ハ。敗。軍。の。も。い。ふ。と。一。は。は。か。て。軍。の。他。法。は。ま。下。と。よ
定。り。と。合。作。も。難。を。の。さ。う。さ。う。一。切。を。以。す
む。小。勝。の。立。を。以。た。り。と。さ。う。さ。う。一。なり
第二十八なるあり戦し度
一。大。勝。小。勝。山。川。の。れ。合。の。も。先。山。と。な。そ。う。戦。の。時。大。勝
あり。山。は。さ。う。の。り。な。う。だ。ん。の。傳。り。を。度。す。一。切。か
さ。に。あ。り。と。敵。と。さ。う。味。方。に。息。を。つ。と。さ。う。一。森
林。と。何。ら。ハ。矢。と。射。を。換。炮。と。う。て。伏。つ。ま。の。さ。う。と
さ。う。一。敵。山。ち。う。殘。を。さ。う。と。つ。う。傳。厚。旗。と。申。り
傳。た。う。ハ。下。坂。と。さ。う。と。さ。う。味。方。の。さ。う。と。う。ね

ひて。其上よりそなりたる勝利のみ細なるを
 知る。又勝者など表裏と見えたり。その
 一のうらも二の心。或はすこさ。或は時時
 らして。跡はぬんとする。式道うと此の族也。
 また他法も定まりしに思ひ給へ。相又敵といふ
 たとして。氣とせき難くよれな。こころに返めり必
 り下知るべし。い時ハ後務とひんはなり。ごと
 世時もよく味方とあつても。せん命。但敵の是
 により。これハ敵とあらと云子細を。必要の
 裏よりあられて。うらんと云ものあり。或はう
 の金銭に。味方よりものなり。或はうら

の表裏は氣とつう。子卧てゐる時などう出る
 也。大腸小腸ともは敵の食ちとんぐ。お封を心を難
 不よりまじらる。路きおをういふの体也

第二十六 船軍之事

一船軍に倭が舟一小船より人多くあつた也。大勝、衆方船が破
 けをたふすに淺瀬より入りやすし。沖より衆が沈没多し。役
 人といふ船主より二人。軍と船との切者。艦の方二人。是ハ提
 督といふ人也。うき淺十文字をいふ。又うきうきとて矮し
 くのうきには小いりと仰ておす也。是皆船をいふべし
 たり。惣計大將より方人衆多し。ハ落武者の時なり。そ
 公常にはまれなり。倭よりあふ下より敵よりより。奥より

とよねとて。陸といふとあはる時と。波た
とて。矢向のふは葛などとねじ。荒和布などとあて
ねとて。矢向のふは葛などとねじ。荒和布などとあて
の戦はるふは小ねは勝利あり由成なり。大ねは沖の
直廻らんと思ふ。小ねは入ねのとももの。このふは
と入るねは不自由成なり。大ねは入ねのとももの。このふは
ね要なり。小ねの戦はるふは勝利あり由成なり。大ねは沖の
ものなり。難ふとねは入ねのとももの。このふは
て。波と荒といふとあはる時と。波た
とて。矢向のふは葛などとねじ。荒和布などとあて
多き。帆のふは。大ねは入ねのとももの。このふは

とよねとて。陸といふとあはる時と。波た
とて。矢向のふは葛などとねじ。荒和布などとあて
の戦はるふは小ねは勝利あり由成なり。大ねは沖の
直廻らんと思ふ。小ねは入ねのとももの。このふは
と入るねは不自由成なり。大ねは入ねのとももの。このふは
ね要なり。小ねの戦はるふは勝利あり由成なり。大ねは沖の
ものなり。難ふとねは入ねのとももの。このふは
て。波と荒といふとあはる時と。波た
とて。矢向のふは葛などとねじ。荒和布などとあて
多き。帆のふは。大ねは入ねのとももの。このふは

有^ありく又^{また}船^{ふね}を働^{はたら}くさるゝの事^{こと}も又^{また}船^{ふね}を操^{さく}る事^{こと}
其^{その}の敵^{てき}の如^{ごと}く一^{ひと}概^{がい}と思^{おも}ふべし又^{また}は國^{くに}を以^{もつ}て兵^{へい}軍^{ぐん}
と心^{こころ}づかれど八^{はつ}成^{せい}づくべし。海^{うみ}も陸^{りく}の如^{ごと}く
ももあつても少^{すく}なむべし

第二十七大將の如^{ごと}くはるの夏^{なつ}

一^{ひと}旗^{はた}ハ船^{ふね}の方^{ほう}を右^{みぎ}に立^たて此^{こゝ}に風^{かぜ}あつてハ
一^{ひと}砲^{はう}道具^{どうぐ}ハ船^{ふね}先^{さき}より船^{ふね}を擡^たぎのりて横^{よこ}を切^きるべし
一^{ひと}長^{なが}道具^{どうぐ}ハ船^{ふね}の方^{ほう}に立^たて此^{こゝ}に風^{かぜ}あつて横^{よこ}渡^{わたり}の打^{うち}を以^{もつ}て
有^あべし。海^{うみ}も陸^{りく}の如^{ごと}くはるゝの事^{こと}も又^{また}船^{ふね}を操^{さく}る事^{こと}
其^{その}の敵^{てき}の如^{ごと}く一^{ひと}概^{がい}と思^{おも}ふべし又^{また}は國^{くに}を以^{もつ}て兵^{へい}軍^{ぐん}
と心^{こころ}づかれど八^{はつ}成^{せい}づくべし。海^{うみ}も陸^{りく}の如^{ごと}く
ももあつても少^{すく}なむべし

一^{ひと}船^{ふね}は右^{みぎ}に立^たて此^{こゝ}に風^{かぜ}あつて横^{よこ}渡^{わたり}の打^{うち}を以^{もつ}て
有^あべし。海^{うみ}も陸^{りく}の如^{ごと}くはるゝの事^{こと}も又^{また}船^{ふね}を操^{さく}る事^{こと}
其^{その}の敵^{てき}の如^{ごと}く一^{ひと}概^{がい}と思^{おも}ふべし又^{また}は國^{くに}を以^{もつ}て兵^{へい}軍^{ぐん}
と心^{こころ}づかれど八^{はつ}成^{せい}づくべし。海^{うみ}も陸^{りく}の如^{ごと}く
ももあつても少^{すく}なむべし

一^{ひと}船^{ふね}は右^{みぎ}に立^たて此^{こゝ}に風^{かぜ}あつて横^{よこ}渡^{わたり}の打^{うち}を以^{もつ}て
有^あべし。海^{うみ}も陸^{りく}の如^{ごと}くはるゝの事^{こと}も又^{また}船^{ふね}を操^{さく}る事^{こと}
其^{その}の敵^{てき}の如^{ごと}く一^{ひと}概^{がい}と思^{おも}ふべし又^{また}は國^{くに}を以^{もつ}て兵^{へい}軍^{ぐん}
と心^{こころ}づかれど八^{はつ}成^{せい}づくべし。海^{うみ}も陸^{りく}の如^{ごと}く
ももあつても少^{すく}なむべし

なれ。兵理此よりしてまはする身也。功者の事なり。ま
ゝ軍の行なふに負と定て。その上その勝と勝と
沙汰を施さる。利と損とまはする。民学なるとハ
この文字をあらう。其國乃をさし沙汰せられすと
し。わが我朝の死合。群衆のふくむ。んをよそ
思案ある。勝負負はまはする。軍法のを。か
中の月のこと。されん。軍及。軍の沙汰をあらわ
て。諸寇決定と名付。書集たり。ある
第三十三うらう。記敵とす

一不審の敵をみづりにするなれ
一味方よふ審ある。敵を逃るなれ

一小敵にて。大に害ある。大敵に討にくる
一大敵にて。とる。ある。大敵に討にくる
一愚なりとも。情をさる。大敵に討にくる
一の多放。うらう。し
一勝を捨る。敵に死る。をい。とる。うらう
一弱將たりとも。死は。ある。うらう
一死の負色。ある。大敵に討にくる。大敵に討にくる
こら。より。逃。せん。と。する。大敵に討にくる。大敵に討にくる
つ。より。もの。なり。大敵に討にくる。大敵に討にくる
一初。取。合。ふ。敵。に。志。り。う。さ。に。大敵に討にくる。大敵に討にくる
一死。を。新。大。將。に。う。ら。に。く。し。は。大敵に討にくる。大敵に討にくる

里々すきとを人のあつたなり行せしめて敵の志
 をらぐて。なりいもよりさうきくその候也又定なり
 大物と各別候。たゞ粗書あるを定なりと云ふまゝ
 よりなる候法よりさうきくをあらたむると云ふを
 らしむる候は次より

心を改め大にお根の生れ付くことよりてうち
 にくは減らさるゝ人なり。一度作はりていられん
 下諸のよしとまれ悪事あるて後をあらためて
 上下民志よくしなれぬの事あるは根のうへこ
 ころのさうなり。ゆより終また賢といわれ終る
 人なり又一なるといわれ。そんなをひく人して然

人ふやまれと云る人も世の——こそよ。十倍の志を倍
うていふぞとて沙汰みべんや羽氏者なりと此
こころへ
旨日ありこれ過則勿憚改と云ふ方人臆病の受
あまたにバクはうわくしきとをしるきてまれ
えみその後大軍を危やり。ちもちおろすと討捕之有
つうたひぐし
け人はこの勢と云えんと其合後あり時。ち人又是とい
たいやういしをハシラサ
くと強う大將の目往不咎と云ふ。勢よなされ多きを
しんこう
たの勵む事なきとゆへよ。たまふそのときづび。具り
ゆるぎ
評定よりあり

一備^{いちび}定^{さだ}まり^まり^り方^{かた}敵^{てき}は^はう^うら^らに^にく^く志^し定^{さだ}まり^まり^り方^{かた}と^と心^{こころ}を^をさ^さし^しけ
と^とせ^せ後^{うしろ}ハ^ハ志^しを^をなり^{なり}。た^い周^{しゅう}を^を時^{とき}と^とな^なは^はさ^さる^るが^がど^どれ^れと^とも
後^{うしろ}と^とい^いふ^ふも^も。怒^{いか}り^りの^のも^もと^とく^くせ^せと^とい^いふ^ふも^も海^{うみ}と^とい^いふ^ふも^もの^のゆ^ゆえ



The « Gunpô Jiyôshû » is a japanese collection from 1664, gathering various warrior traditions of the time, in 12 books.

You will find here all of the complete 12 books.

Here is the 12 books index :

Book 1 : Questions and answers about bravery.

Book 2 : About preparation to battles. (First part)

Book 3 : About preparation to battles. (Second part)

Book 4 : About preparation to battles. (Third part)

Book 5 : About the weapons and the tools.

Book 6 : About shinobi / ninja. (First part)

Book 7 : About shinobi / ninja. (Second part)

Book 8 : About shinobi / ninja. (Third part)

Book 9 : About lucky and unlucky day, time and direction. (First part)

Book 10 : About lucky and unlucky day, time and direction. (Second part)

Book 11 : About lucky and unlucky day, time and direction. (Third part)

Book 12 : About *ki* (*chi* or *qi*).

For information, these 12 books of the « Gunpô Jiyôshû » have been fully published and translated in modern japanese in a single book, during the year 2001, by the japanese publisher Perikansha :

<https://www.amazon.co.jp/%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%AD%A6%E5%A3%AB%E3%81%AE%E5%BF%83%E5%BE%97%E2%80%95%E3%80%8E%E8%BB%8D%E6%B3%95%E4%BE%8D%E7%94%A8%E9%9B%86%E3%80%8F%E3%81%AE%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E5%8F%A4%E5%B7%9D-%E5%93%B2%E5%8F%B2/dp/483150971X>

Auteur : Ogasawara Sakuun (小笠原 昨雲)
Titre en langue originale : « 軍法 侍用集 »
Titre en japonais : « Gunpô Jiyôshû »
Titre en français : « Recueil des techniques guerrières des samouraïs »
Titre en anglais : « The collected way of the samurai military arts »
Année : 1664

Le « Gunpô Jiyôshû » est un recueil japonais datant de 1664, compilant diverses traditions guerrières de l'époque en 12 cahiers.
Vous trouverez ici l'intégralité de ces 12 cahiers.

En voici le sommaire :

Cahier 1 : Dialogue sur la bravoure.

Cahier 2 : Sur la préparation aux batailles. (Première partie)

Cahier 3 : Sur la préparation aux batailles. (Deuxième partie)

Cahier 4 : Sur la préparation aux batailles. (Troisième partie)

Cahier 5 : Sur les armes et les outils.

Cahier 6 : Sur les ninja. (Première partie)

Cahier 7 : Sur les ninja. (Deuxième partie)

Cahier 8 : Sur les ninja. (Troisième partie)

Cahier 9 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Première partie)

Cahier 10 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Deuxième partie)

Cahier 11 : Sur l'astrologie et la divination traditionnelles (jours, heures et directions favorables ou défavorables). (Troisième partie)

Cahier 12 : Sur les manifestations de l'énergie vitale (le *ki*, *qi* ou *chi*)

Pour mémoire, ces 12 cahiers du « Gunpô Jiyôshû » ont été intégralement retranscrits et publiés en japonais moderne en un seul livre, en 2001, par les éditions japonaises Perikansha :

<https://www.amazon.co.jp/%E6%88%A6%E5%9B%BD%E6%AD%A6%E5%A3%AB%E3%81%AE%E5%BF%83%E5%BE%97%E2%80%95%E3%80%8E%E8%BB%8D%E6%B3%95%E4%BE%8D%E7%94%A8%E9%9B%86%E3%80%8F%E3%81%AE%E7%A0%94%E7%A9%B6-%E5%8F%A4%E5%B7%9D-%E5%93%B2%E5%8F%B2/dp/483150971X>